

遺物No	層位	部位	文様及び調整				色調				胎土				備考	実測No		
			外面		内面		外面		内面		黒	白	灰	褐色			透明・透緑	金雲母
608	VI+VII	1線部	つまみによる隆帯文	ナデ	7.5YR6/4(こい)黄	7.5YR6/4(こい)黄				○	○	○	○	○	○	隆帯は逆位で右回り	1069	
609	VI+VII	1線部	隆帯上に押引文	ナデ	7.5YR4/2(赤)	10YR6/3(こい)黄				○	○	○	○	○	○		1375	
610	VI	製部	隆帯上に押引文	ナデ	10YR6/2(赤黄)	2.5Y5/1(黄灰)				○	○	○	○	○	○		1554	
611	IX	1線部	隆帯上に凸筋文	ナデ	7.5YR5/2(赤黄)	7.5YR4/2(赤)				○	○	○	○	○	○		1594	
612	VII	1線部	隆帯上に押引文	ナデ	10YR6/3(こい)黄	10YR6/4(こい)黄				○	○	○	○	○	○	1線部ナデ・スス付着	1356	
613	VII	1線部	隆帯上に凸筋文	ナデ・指押りえ	7.5YR5/2(赤黄)	10YR6/3(こい)黄				○	○	○	○	○	○	1線部凸筋文	966	
614	VII	1線部	隆帯上に凸筋文	ナデ	10YR5/2(赤黄)	10YR4/1(黄灰)				○	○	○	○	○	○	1線部凸筋文	1022	
615	VII	1線部	つまみによる隆帯上に凸筋文	ナデ	7.5YR6/4(こい)黄	10YR6/3(こい)黄				○	○	○	○	○	○		1373	
616	IX	1線部	つまみによる隆帯上に凸筋文	ナデ	7.5YR5/4(こい)黄	10YR7/1(灰白)				○	○	○	○	○	○		83	
617	VII+IX	1線部	つまみによる隆帯文	ナデ	10YR5/2(赤黄)	7.5YR5/2(赤黄)				○	○	○	○	○	○		1363	
618	IX	1線部	つまみによる隆帯文の下部にナデ	ナデ	10YR4/1(黄灰)	10YR5/2(赤黄)				○	○	○	○	○	○		1384	
619	VII	1線部	つまみによる隆帯文	ナデ	7.5YR4/2(赤)	5YR5/3(こい)赤黄				○	○	○	○	○	○	1線部ナデ	1369	
620	IX	1線部	隆帯上にナデ	ナデ	7.5YR4/2(赤)	10YR6/3(こい)黄				○	○	○	○	○	○		91	
621	VII	1線部	隆帯上にナデ	ナデ(不明)	10YR4/2(赤黄)	10YR4/2(赤黄)				○	○	○	○	○	○	1線部ナデ	208	
622	VI	1線部	隆帯上に具股押引文	ナデ	10YR6/3(こい)黄	10YR5/2(赤黄)				○	○	○	○	○	○		1492	
623	VI	1線部	隆帯上に押引文	ナデ	10YR5/2(赤黄)	10YR4/2(赤黄)				○	○	○	○	○	○		2015	
624	VI	1線部	肥厚帯下部に具股押引文	ナデ	10YR6/4(こい)黄	7.5YR6/3(こい)黄				○	○	○	○	○	○	1線部具股押引文	1490	
625	VI	1線部	肥厚帯下部に具股押引文	ナデ	10YR5/3(こい)黄	7.5YR5/3(こい)黄				○	○	○	○	○	○		94	
626	VII	1線部	肥厚帯下部に具股押引文	ナデ	10YR5/2(赤黄)	7.5YR5/3(こい)黄				○	○	○	○	○	○	スス付着	1361	
627	V+VII	1線部	肥厚帯下部に具股押引文	ナデ	7.5YR5/3(こい)黄	7.5YR6/4(こい)黄				○	○	○	○	○	○	1線部具股押引文	1489	
628	VI	1線部	肥厚帯下部に具股押引文	ナデ	10YR5/2(赤黄)	10YR5/2(赤黄)				○	○	○	○	○	○		1497	
629	VII	製部	肥厚帯下部に具股押引文	指押りえ・ナデ	5YR5/3(こい)赤黄	10YR6/3(こい)黄				○	○	○	○	○	○		1486	
630	VII	製部	肥厚帯下部に具股押引文	ナデ	10YR5/1(黄灰)	7.5YR5/2(赤黄)				○	○	○	○	○	○		853	
631	VII	1線部	肥厚帯下部に具股押引文	ナデ	10YR6/3(こい)黄	10YR6/3(こい)黄				○	○	○	○	○	○		1229	
632	VII+IX	製部	肥厚帯下部に具股押引文	ナデ	10YR6/3(こい)黄	10YR6/3(こい)黄				○	○	○	○	○	○		1362	
633	VII+IX	1線部	肥厚帯下部に刺突文・下部に具股押引文	ナデ	10YR6/3(こい)黄	2.5Y6/2(赤黄)				○	○	○	○	○	○		1487	
634	IX	1線部	肥厚帯下部に刺突文・下部に具股押引文	ナデ	10YR6/3(こい)黄	2.5Y4/1(黄灰)				○	○	○	○	○	○		1366	
635	IX	1線部	肥厚帯下部に多角文・下部に押引文	ナデ	2.5Y4/1(黄灰)	10YR5/2(赤黄)				○	○	○	○	○	○		1357	
636	VII	1線部	肥厚帯下部に多角文・下部に押引文	ナデ	7.5YR5/3(こい)黄	10YR4/1(黄灰)				○	○	○	○	○	○		970	
637	VI	1線部	肥厚帯下部に多角文・下部に押引文	ナデ	7.5YR5/3(こい)黄	10YR4/2(赤黄)				○	○	○	○	○	○		323	
638	V+VII+IX	1線部	肥厚帯下部に刺突文	ナデ	7.5YR4/1(黄灰)	10YR5/2(赤黄)				○	○	○	○	○	○	1線部押引文	95	
639	VI+VII	1線部	肥厚帯下部に押引文	ナデ・指押りえ	7.5YR6/4(こい)黄	7.5YR6/4(こい)黄				○	○	○	○	○	○	1線部具股押引文	1491	
640	VII	1線部	肥厚帯下部に刺突文及び押引文	ナデ	10YR5/3(こい)黄	7.5YR5/3(こい)黄				○	○	○	○	○	○		38	
641	VI+VII	1線部	肥厚帯下部に隆帯及び押引文	ナデ	10YR4/2(赤黄)	7.5YR5/3(こい)黄				○	○	○	○	○	○	1線部具股押引文・隆帯ナデあり	92	
642	VI	1線部	肥厚帯下部に凸筋文	ナデ・指押りえ	10YR5/2(赤黄)	10YR6/3(こい)黄				○	○	○	○	○	○		864	
643	VI	製部	肥厚帯下部に凸筋文	ナデ	2.5Y5/1(黄灰)	10YR6/3(こい)黄				○	○	○	○	○	○		1546	
644	VII	1線部	肥厚帯下部に刺突文	指押りえ・ナデ	10YR6/4(こい)黄	10YR5/3(こい)黄				○	○	○	○	○	○		507	
645	VI	1線部	肥厚帯下部に刺突文	ナデ	10YR5/2(赤黄)	10YR5/2(赤黄)				○	○	○	○	○	○		1493	
646	VII	製部	肥厚帯下部に刺突文	ナデ	10YR5/2(赤黄)	10YR4/1(黄灰)				○	○	○	○	○	○	スス付着	1501	
647	VII	製部	肥厚帯下部に刺突文	ナデ	7.5YR5/3(こい)黄	5YR5/3(こい)赤黄				○	○	○	○	○	○		1522	
648	VI	1線部	肥厚帯下部に押引文	ナデ	10YR6/2(赤黄)	7.5YR6/4(こい)黄				○	○	○	○	○	○		1356	
649	VII	製部	肥厚帯下部に押引文	ナデ	7.5YR5/2(赤)	10YR5/3(こい)黄				○	○	○	○	○	○		1508	
650	VI	1線部	肥厚帯下部に隆帯及び凸筋文	ナデ	7.5YR5/3(こい)黄	10YR6/3(こい)黄				○	○	○	○	○	○		1483	
651	VI	1線部	肥厚帯下部に隆帯及び凸筋文	ナデ	10YR4/1(黄灰)	10YR5/2(赤黄)				○	○	○	○	○	○	1線部に突起有	1479	
652	VII	1線部	肥厚帯下部に凸筋文	ナデ	2.5Y4/1(黄灰)	10YR5/2(赤黄)				○	○	○	○	○	○		1372	
653	IX	1線部	肥厚帯下部につまみによる隆帯文	ナデ・指押りえ	10YR6/3(こい)黄	10YR5/2(赤黄)				○	○	○	○	○	○	1線部に刺突文	1481	
654	VI+VII	1線部	肥厚帯下部につまみによる隆帯文	ナデ	10YR5/3(こい)黄	10YR6/3(こい)黄				○	○	○	○	○	○		1486	
655	VI+VII	製部	肥厚帯下部につまみによる隆帯文	ナデ	10YR6/3(こい)黄	10YR5/2(赤黄)				○	○	○	○	○	○		1509	
656	VII+IX	製部	肥厚帯下部につまみによる隆帯文	ナデ	10YR6/3(こい)黄	10YR6/3(こい)黄				○	○	○	○	○	○		1506	
657	VI	1線部	肥厚帯下部につまみによる隆帯文	ナデ	5YR5/3(こい)赤黄	2.5YR5/4(こい)赤黄				○	○	○	○	○	○	左取有ナ	1493	
658	VI	1線部	肥厚帯下部につまみによる隆帯文	ナデ	10YR5/2(赤黄)	7.5YR5/3(こい)黄				○	○	○	○	○	○		1359	
659	VI+VII+IX+X	製部	肥厚帯下部につまみによる隆帯文	ナデ	5YR6/4(こい)黄	2.5Y4/1(黄灰)				○	○	○	○	○	○		1507	
660	VI+VII	1線部	肥厚帯下部に刺突文・下部に押引文	ナデ	7.5YR5/3(こい)黄	10YR4/1(黄灰)				○	○	○	○	○	○		943	
661	VI+VII	1線部	肥厚帯下部に押引文	粗いナデ	5YR5/4(こい)赤黄	5YR5/3(こい)赤黄				○	○	○	○	○	○		1505	
662	IX	製部	肥厚帯下部につまみによる隆帯文	ナデ	7.5YR5/3(こい)黄	10YR5/2(赤黄)				○	○	○	○	○	○	スス付着	1488	
663	VI	1線部	肥厚帯下部に刺突文・下部に凸筋文	粗いナデ	10YR5/3(こい)黄	7.5YR5/3(こい)黄				○	○	○	○	○	○		1541	
664	VI	1線部	肥厚帯下部に凸筋文とその下に肥厚帯	ナデ	5YR5/2(赤黄)	7.5YR5/3(こい)黄				○	○	○	○	○	○		41	
665	VII	1線部	つまみによる隆帯後ナデによる肥厚帯	ナデ・指押りえ	10YR6/3(こい)黄	10YR7/3(こい)黄				○	○	○	○	○	○		1503	
666	IX	1線部	つまみによる隆帯後ナデによる肥厚帯	粗いナデ	7.5YR5/2(赤)	7.5YR5/3(こい)黄				○	○	○	○	○	○		971	
667	IX	1線部	つまみによる隆帯後ナデによる肥厚帯	粗いナデ	7.5YR5/2(赤)	7.5YR4/1(黄灰)				○	○	○	○	○	○		1504	
668	VII	1線部	肥厚帯下部に具股押引文・下部に凸筋文と具股押引文	ナデ	10YR5/3(こい)黄	2.5Y5/2(赤黄)				○	○	○	○	○	○	1線部具股押引文	1362	

遺物 No.	層位	部位	文様及び調整		色調		胎土				備考	実測 値						
			外面	内面	外面	内面	黒	白	灰	褐色 着色			金銀粉					
669	Ⅷ	1層部	肥厚帯下面につまみによる 縄文・貝型押圧文	ナデ	5YR6/4(土黄褐色)	7.5YR5/3(土黄褐色)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1498
670	Ⅸ	1層部～製部	1層部下にやち肥厚させた 上に凸形文	縄文(無文)	10YR6/3(土黄褐色)	10YR6/3(土黄褐色)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1498
671	Ⅷ	1層部	1層部下にやち肥厚させた 上に凸形文	ナデ	10YR6/4(土黄褐色)	10YR6/4(土黄褐色)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1507
672	Ⅷ	1層部	1層部下にやち肥厚させた 上に凸形文	ナデ	10YR5/2(灰黄緑)	10YR5/3(土黄褐色)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1539
673	Ⅸ	1層部	1層部下にやち肥厚させた 上に凸形文	凸形文・ナデ・ 筋線引き	10YR5/1(黄灰)	10YR5/3(土黄褐色)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1567
674	Ⅷ	1層部	1層部下にやち肥厚させた 上に凸形文	ナデ	10YR5/2(灰黄緑)	10YR5/3(土黄褐色)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1567
675	Ⅷ	1層部	1層部下にやち肥厚させた 上に凸形文	ナデ	2.5Y5/1(黄灰)	10YR5/3(土黄褐色)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1549
676	Ⅷ	製部	凸形文・捺印上に押圧文	ナデ	7.5YR6/4(土黄褐色)	7.5YR6/4(土黄褐色)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1553
677	Ⅷ	製部	押圧文	ナデ	10YR5/2(灰黄緑)	2.5Y5/2(灰黄)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1568
678	Ⅸb	製部	捺印上に貝型押圧文	ナデ	7.5YR5/3(土黄褐色)	10YR5/2(灰黄緑)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1494
679	Ⅷ+Ⅸ	製部	捺印上にキズ	ナデ	2.5Y5/1(黄灰)	10YR5/2(灰黄緑)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1518
680	Ⅷ	製部	つまみによる捺印	ナデ	10YR5/3(土黄褐色)	10YR5/3(土黄褐色)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1517
681	Ⅷ	製部	つまみによる捺印	ナデ	7.5YR5/2(灰黄)	5YR5/4(土黄褐色)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1519
682	Ⅷ	底部	ナデ	ナデ	10YR6/3(土黄褐色)	10YR6/3(土黄褐色)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1979
683	Ⅷ	底部	ナデ	ナデ	10YR6/3(土黄褐色)	10YR5/3(土黄褐色)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1976
684	Ⅷ+Ⅸ	底部	ナデ	ナデ	10YR6/3(土黄褐色)	10YR5/3(土黄褐色)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2066
685	Ⅷ+Ⅸ	底部	ナデ	ナデ	10YR7/4(土黄褐色)	2.5YR6/3(土黄褐色)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2090
686	Ⅷ+Ⅸ	1層部	つまみによる捺印文の後に 削製文	ナデ	7.5YR4/2(灰黄)	5YR5/4(土黄褐色)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1878
687	Ⅸ	1層部	つまみによる捺印文の後に 削製文	縦方向の捺印上に 削製文・ナデ	10YR5/2(灰黄緑)	10YR5/3(土黄褐色)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1376
688	Ⅸ	1層部付皮	縦方向の捺印上に 削製文	縦方向の捺印上に 削製文・ナデ	7.5YR6/4(土黄褐色)	5YR5/4(土黄褐色)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1567
689	Ⅸ	製部	ナデ・削製文	ナデ	7.5YR6/4(土黄褐色)	5YR5/4(土黄褐色)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1568
690	Ⅷ	1層部	縦・横方向の捺印文の 割接部	ナデ	10YR5/2(灰黄緑)	10YR5/2(灰黄緑)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1902
691	Ⅷ	1層部	縦方向の捺印文	削製文・ナデ	10YR5/3(土黄褐色)	7.5YR4/2(灰黄)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	974
692	Ⅸ	1層部	つまみによる捺印上に貝殻 削製文	ナデ	5YR5/4(土黄褐色)	5YR5/4(土黄褐色)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1075
693	Ⅷ	底部	ナデ	ナデ	5YR5/4(土黄褐色)	10YR5/3(土黄褐色)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	855
694	Ⅷ	製部	凸形文	7字型ナデ	7.5YR6/4(土黄褐色)	7.5YR5/3(灰黄緑)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	754
695	Ⅷ	製部	楕円形の削製文・ナデ	ナデ	10YR4/2(灰黄)	5YR4/2(灰黄)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1498
696	Ⅷ	製部	削製文・ナデ	ナデ	10YR5/3(土黄褐色)	7.5YR5/3(土黄褐色)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1573
697	Ⅷ	1層部	凸形文・ナデ	ナデ	10YR4/2(灰黄)	10YR5/3(土黄褐色)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1974
698	Ⅷ	1層部	楕円形の削製文・ナデ	ナデ	7.5YR5/2(灰黄)	5YR5/3(土黄褐色)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1570
699	Ⅷ	1層部	削製文・ナデ	ナデ	7.5YR5/3(土黄褐色)	10YR5/2(灰黄緑)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1925
700	Ⅷ	1層部	楕円形の削製文・ナデ	ナデ	7.5YR5/2(灰黄)	7.5YR5/2(灰黄)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1571
701	Ⅷ	1層部	内面的削製文・ナデ	ナデ	7.5YR6/4(土黄褐色)	7.5YR6/4(土黄褐色)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	972
702	Ⅷ	1層部	内面的削製文・ナデ	ナデ(不明)	10YR5/2(灰黄緑)	10YR5/2(灰黄緑)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1255
703	Ⅸ	製部	野原形・円形の削製文	ナデ	7.5YR6/3(土黄褐色)	5YR5/4(土黄褐色)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1572
704	Ⅷ	製部	円形の削製文・ナデ	ナデ・筋線引き	7.5YR5/2(灰黄)	7.5YR4/1(黄灰)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	973
705	Ⅸ	1層部	肥厚帯内・内面的削製文	ナデ	2.5YR5/4(土黄褐色)	7.5YR5/3(土黄褐色)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1547
706	Ⅷ	製部	つまみによる捺印上に円形の 削製文	ナデ	7.5YR4/1(黄灰)	5YR5/3(土黄褐色)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1549
707	Ⅷ	製部	凸形文・ナデ	ナデ	10YR5/2(灰黄緑)	10YR5/2(灰黄緑)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1500
708	Ⅷ+Ⅸ	1層部～製部	凸形文の下につまみによる 削製文・ナデ	ナデ	7.5YR5/3(土黄褐色)	10YR5/3(土黄褐色)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	989
709	Ⅷ	1層部	工具によるナデ	工具によるナデ	10YR6/3(土黄褐色)	2.5Y5/2(灰黄)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2018
710	Ⅷ	1層部	工具によるナデ	工具によるナデ	10YR6/4(土黄褐色)	10YR5/2(灰黄緑)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1984
711	Ⅷ	1層部	条痕の後にナデ	ナデ	7.5YR5/2(灰黄)	10YR6/3(土黄褐色)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1980
712	Ⅷ	1層部	工具によるナデ	工具によるナデ	10YR5/2(灰黄緑)	10YR5/2(灰黄緑)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1983
713	Ⅷ	1層部～製部	ナデ	ナデ	10R6/3(土黄褐色)	10YR5/2(灰黄緑)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2115
714	Ⅷ	1層部	貝殻条痕の後にナデ	ナデ	10YR5/2(灰黄緑)	2.5Y4/1(黄灰)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1919
715	Ⅷ	1層部	削製文・貝殻条痕	ナデ	10YR5/2(灰黄緑)	10YR5/3(土黄褐色)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	336
716	Ⅷ	1層部	削製文・貝殻条痕	ナデ	7.5YR5/3(土黄褐色)	10YR6/3(土黄褐色)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	338
717	Ⅸ	1層部～底部	ナデ	ナデ	2.5Y5/3(黄灰)	2.5Y4/1(黄灰)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	535
718	SC157+Ⅷ	1層部～底部	ナデ	ナデ	10YR5/3(土黄褐色)	7.5YR5/2(灰黄)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	765
719	Ⅷ	底部	ナデ(不明)	ナデ(不明)	10YR5/2(灰黄緑)	7.5YR6/4(土黄褐色)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2207
720	Ⅷ	底部	ナデ	ナデ	2.5Y5/2(灰黄)	2.5Y4/1(黄灰)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2208
721	Ⅷ	土製品	つまみによる捺印文	ナデ	10YR6/4(土黄褐色)	10YR6/4(土黄褐色)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1822
722	Ⅷ	土製品	つまみによる捺印文	ナデ	7.5YR6/4(土黄褐色)	10YR6/3(土黄褐色)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2225
723	Ⅷ	土製品	ナデ	ナデ	5YR4/1(黄灰)	10YR6/3(土黄褐色)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2336

第6表 縄文草創期遺物包含層出土石器計測分類表

遺物 No.	整理 No.	器種	出土 グリッド	層位	石材	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	備考
724	1217	石鏃	A3	Ⅷ	頁岩	1.7	1.6	0.4	0.5	A型
725	1292	石鏃	B1	Ⅷ	頁岩	1.5	(1.2)	0.4	(0.4)	A型 細部欠損
726	69	石鏃	A3	Ⅷ	頁岩	1.2	1.4	0.3	0.3	A型
727	73	石鏃	B3	Ⅸ	黒曜石(巻ノ木層群)	1.3	1.45	0.45	0.4	A型
728	1270	石鏃	D4	Ⅷ	黒曜石(巻ノ木層群)	(1.2)	(1.4)	(0.4)	(0.3)	A型 先端・細部欠損 図記No.KH11-149
729	1261	石鏃	B2	Ⅷ	黒曜石(巻ノ木層群)	1.3	(1.1)	0.4	(0.3)	A型 先端部・基部欠損 図記No.KH11-151

蛍光X線分析による原産地推定結果あり (☆は原産地が判別できなかったもの)

( ) の値は残存値を示す

遺物 No.	整理 No.	器種	出土 グリッド	層位	石材	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	備考
730	1254	石鏝	D2	V1	黒曜石(燧ノ木津留)	1.4	1.2	0.4	0.4	A類 試料No.KIH1-084
731	1264	石鏝	A3	V8	赤黒曜石(黒原島系赤燧)	(1.2)	(1.4)	0.3	(0.2)	B類 脚部欠損 試料NOKIH1-156
732	1224	石鏝	A3	V1	安山岩	1.5	(1.6)	0.4	(0.4)	B類 脚部欠損
733	1240	石鏝	A3	V1-遺	安山岩	1.9	1.6	0.2	0.4	B類
734	1241	石鏝	B3	IX	チャート	(1.4)	1.2	0.3	(0.4)	B類 先頭部欠損
735	1244	石鏝	B3	IX	チャート	(1.7)	1.1	0.3	(0.4)	C類 先頭部、脚部欠損
736	1243	石鏝	B2	V8	チャート	2.1	1.2	0.5	0.9	C類
737	71	石鏝	B3	IX	チャート	1.9	1.2	0.5	0.9	C類
738	1288	石鏝	B3	V8	チャート	1.7	(1.3)	0.4	(0.4)	C類 脚部欠損
739	1285	石鏝	B3	V8	チャート	2.0	1.2	0.4	0.6	C類
740	64	石鏝	A3	V1	チャート	1.9	1.2	0.4	0.6	C類
741	1245	石鏝	B3	V8	頁岩	1.9	(1.7)	0.4	(0.6)	C類 基部欠損
742	1221	石鏝	A3	V8	頁岩	(1.3)	1.5	0.3	(0.5)	C類 先頭部欠損
743	1246	石鏝	A4	V8	頁岩	1.6	1	0.5	0.5	C類
744	1251	石鏝	B3	V1	黒曜石(燧ノ木津留)	(1.7)	(1.1)	0.5	(0.5)	C類 先頭部、基部欠損 試料No.KIH1-087
745	713	石鏝	B3	V1	黒曜石(燧ノ木津留)	(1.3)	1	0.4	(0.3)	C類 先頭部欠損 試料No.KIH1-304
746	1275	石鏝	A4	V8	黒曜石(燧ノ木津留)	(1.8)	1.3	0.4	(0.4)	C類 先頭部欠損
747	32	石鏝	A4	IX	黒曜石(燧ノ木津留)	1.8	1.4	0.3	0.7	C類
748	1280	石鏝	B3	IX	黒曜石(燧ノ木津留)	(1.4)	(1.1)	0.4	(0.4)	C類 先頭部、脚部欠損
749	1253	石鏝	B2	V1	黒曜石(黒原島系赤燧：二船)	(1.9)	(1.2)	(0.5)	(0.8)	C類 脚部欠損 試料No.KIH1-086
750	1286	石鏝	B3	V8	チャート	1.8	1.3	0.4	0.7	D類
751	1287	石鏝	B3	V8	チャート	1.8	1.5	0.4	0.6	D類
752	1242	石鏝	B1	V1	チャート	1.9	1.7	0.4	0.6	D類
753	1289	石鏝	B3	V8	頁岩	(2.6)	(0.9)	0.3	(0.3)	D類 先頭部、脚部欠損
754	1248	石鏝	A3	V8	頁岩	2.8	1.5	0.5	1.5	D類
755	1291	石鏝	B3	V8	頁岩	(2.2)	(1.4)	(0.4)	(0.4)	D類 先頭部、脚部欠損
756	1249	石鏝	A3	V8	頁岩	(1.9)	(1.6)	0.3	(0.5)	D類 脚部欠損
757	51	石鏝	B3	IX	頁岩	1.65	1	0.3	0.4	D類
758	1256	石鏝	A4	V1	黒曜石(燧ノ木津留)	(1.8)	(1.1)	0.4	(0.4)	D類 脚部欠損 試料No.KIH1-092
759	1272	石鏝	D4	V8	黒曜石(燧ノ木津留)	1.2	0.9	0.3	0.2	D類
760	1268	石鏝	B2	V8	黒曜石(燧ノ木津留)	(1.5)	(1.1)	0.4	(0.5)	D類 先頭部、脚部欠損
761	1277	石鏝	D4	V8	黒曜石(燧ノ木津留)	(1.3)	1.1	0.4	(0.3)	D類 先頭部、脚部欠損
762	1278	石鏝	B3	V8	黒曜石(燧ノ木津留)	(1.4)	(1.1)	0.4	(0.5)	D類 先頭部欠損
763	1258	石鏝	B3	V8	赤黒曜石(燧ノ木津留)	1.9	1.2	0.6	0.8	D類 試料No.KIH1-152
764	1282	石鏝	B3	IX	赤黒曜石(燧ノ木津留)	(1.2)	7.0	0.4	(0.1)	D類 先頭部欠損
765	1271	石鏝	A4	V8	赤黒曜石(燧ノ木津留)	1.9	(1.3)	0.4	(0.6)	D類 脚部欠損
766	1252	石鏝	D2	V1	赤黒曜石(燧ノ木津留)	2.1	1.3	0.5	0.8	D類
767	1281	石鏝	B3	V8	赤黒曜石(燧ノ木津留)	2.2	(1.4)	0.5	(0.9)	D類 脚部欠損 被熱劣
768	72	石鏝	A4	IX	赤黒曜石(燧ノ木津留)	1.8	1.4	0.5	0.8	D類
769	1279	石鏝	B3	V1	赤黒曜石(燧ノ木津留)	1.9	1.2	0.4	(0.5)	D類 脚部欠損
770	1276	石鏝	B3	V8	赤黒曜石(燧ノ木津留)	(1.4)	(1.1)	0.4	(0.4)	D類 先頭部欠損
771	1263	石鏝	B3	V8	赤黒曜石(燧ノ木津留)	1.6	1.1	0.4	0.4	D類 試料No.KIH1-157
772	1257	石鏝	B3	V8	赤黒曜石(燧ノ木津留)	(1.6)	1.1	0.3	(0.3)	D類 先頭部欠損 試料No.KIH1-155
773	1259	石鏝	B3	V8	赤黒曜石(燧ノ木津留)	1.6	1.2	0.4	0.3	D類 試料No.KIH1-148
774	1265	石鏝	B3	IX	赤黒曜石(燧ノ木津留)	1.9	1.2	0.4	0.6	D類 試料No.KIH1-150
775	1250	石鏝	B3	V1	赤黒曜石(燧ノ木津留)	2.0	(1.5)	0.5	(0.8)	D類 脚部欠損 試料No.KIH1-117
776	1220	石鏝	A3	V1-遺	安山岩	1.5	1.2	0.4	0.1	D類
777	1284	石鏝	A3	V1	チャート	(2.2)	2.1	0.4	(0.6)	E類 先頭部欠損
778	1290	石鏝	B1	V8	頁岩	1.7	1.2	0.4	0.5	E類
779	1223	石鏝	B3	V8	頁岩	1.9	(1.4)	0.4	(0.5)	E類 脚部欠損
780	1266	石鏝	A3	V1	頁岩	(1.8)	(1.5)	0.4	(0.6)	E類 先頭部、脚部欠損
781	1293	石鏝	B1	V8	頁岩	2.3	1.6	0.4	1.3	E類
782	1267	石鏝	B2	V1	赤黒曜石(燧ノ木津留)	(1.5)	(1.2)	0.4	(0.4)	E類 先頭部、脚部欠損 試料No.KIH1-089
783	1273	石鏝	A4	V8	赤黒曜石(燧ノ木津留)	(1.8)	1	0.6	(0.5)	E類 先頭部欠損
784	1262	石鏝	B3	V8	赤黒曜石(燧ノ木津留)	(1.8)	(1.1)	0.3	(0.4)	E類 脚部欠損 試料No.KIH1-154
785	1274	石鏝	B3	V8	赤黒曜石(燧ノ木津留)	2.1	1.3	0.4	0.5	E類
786	1302	石鏝	A3	V8	安山岩	2.3	1.3	0.4	0.9	E類
787	1250	石鏝	B3	IX	ホルンフェルス	(1.9)	1.2	0.5	(0.6)	E類 先頭部欠損
788	65	石鏝	A3	V8	安山岩	(2.1)	1.8	0.35	(1.1)	F類 先頭部欠損
789	58	石鏝	A3	V8	安山岩	2.5	1.9	0.35	1	F類
790	1295	石鏝	A3	V1	安山岩	2.0	1.8	0.4	(1)	F類 脚部欠損
791	1299	石鏝	D1	V1	安山岩	2.5	1.8	0.4	1	F類
792	1298	石鏝	A3	V8	安山岩	2.6	1.9	0.3	1.1	F類
793	1303	石鏝	A2	V8	安山岩	2.0	1.7	0.4	(0.8)	F類 脚部欠損
794	1283	石鏝	A3	V8	安山岩	2.7	2.3	0.6	2.2	F類
795	1296	石鏝	A3	V1	安山岩	2.7	1.6	0.5	1	F類
796	1301	石鏝	A2	V1	安山岩	(2.0)	1.7	0.3	(0.7)	F類 脚部欠損
797	1300	石鏝	A3	V1	安山岩	2.1	(1.6)	0.3	(0.7)	F類 脚部欠損
798	1294	石鏝	A3	V1	安山岩	2.0	1.8	0.4	1	F類
799	1231	石鏝	A3	V1	安山岩	(2.3)	2.1	0.5	(1.4)	F類 先頭部欠損
800	1234	石鏝	A3	V1	安山岩	(2.5)	(2.0)	0.6	(1.5)	F類 先頭部、脚部欠損
801	1232	石鏝	A3	V1	安山岩	3.7	2.4	0.5	1.9	F類 先頭部再加工
802	1227	石鏝	A3	V1	安山岩	2.7	(1.8)	(0.4)	(1.3)	F類 脚部、脚部欠損
803	1225	石鏝	A3	V8	安山岩	2.4	(2.2)	0.3	(0.9)	F類 脚部欠損
804	1233	石鏝	A3	V1	安山岩	(2.6)	2.2	0.4	(1.8)	F類 先頭部欠損
805	1236	石鏝	A3	V1	安山岩	2.7	(2.1)	0.4	(1.2)	F類 先頭部欠損
806	1226	石鏝	A3	V1	安山岩	2.4	(2.0)	0.4	(1.1)	F類 脚部欠損
807	1238	石鏝	A3	V1	安山岩	2.0	1.9	0.4	1.3	F類
808	1228	石鏝	A3	V8	安山岩	3.3	(1.8)	0.5	(2.2)	F類 脚部欠損
809	1229	石鏝	A3	V8	安山岩	(3.9)	(2.1)	0.7	(3.3)	F類 先頭部、脚部欠損
810	1237	石鏝	A4	V8	安山岩	2.2	1.7	0.4	0.7	F類
811	1297	石鏝	A3	V8	安山岩	2.2	2.0	0.4	1.1	F類
812	1306	石鏝	A3	V8	頁岩	2.7	(2.1)	0.4	(1.3)	F類 脚部欠損
813	54	石鏝	A3	V1	緑の輝石質頁岩	(2.2)	2.3	0.5	(1.8)	F類 先頭部、基部欠損
814	1309	石鏝	B3	V1-遺	頁岩	2.7	(1.6)	0.4	(1.3)	G類 先頭部欠損 継ぎ合わせ

蛍光X線分析による原産地推定結果あり(赤)は原産地が判別できなかったもの

( )の値は残存値を示す

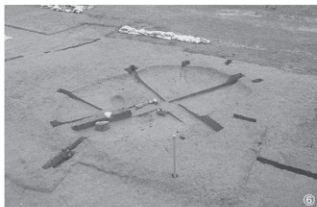
遺物 No.	整理 No.	器種	出土 グロッド	層位	石材	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	備考
815	1235	石碗	A3	V	ホルンフェルス	4.0	(2.0)	(0.6)	(3.1)	日曜 脚部欠損
816	1310	石碗未製品	A3	V	チャート	2.3	1.9	0.7	3.1	
817	1269	石碗未製品	B3	VI	チャート	1.6	1.2	0.3	0.4	先端部欠損 側面原料か
818	68	石碗未製品	A3	V	前山岩	2.4	2.1	0.6	3.1	
819	1222	石碗未製品	A3	V	頁岩	2.3	1.8	0.5	0.6	
820	1308	石碗未製品	B3	VI	頁岩	3.3	2.6	0.3	3.7	
821	687	石碗未製品	B3	VI	黒曜石(巻ノ木津産)	1.4	1	0.4	0.4	試料No.K3H-105
822	1307	石碗未製品	A3	V	赤黒曜石(西北九州)	2.7	2.2	0.7	3.4	試料No.K3H-153
823	1304	石碗未製品	A3	V	安山岩	(3.1)	2.0	0.7	(2.1)	先端部欠損
824	70	石碗未製品	A3	V	安山岩	2.7	2.0	1	3.8	
825	1305	石碗未製品	A3	VI	安山岩	(3.4)	(2.0)		(2.5)	脚部欠損
826	1230	石碗未製品	A3	VI	安山岩	3.7	2.9	0.8	6.1	
827	1311	石碗未製品	A3	V	頁岩	2.8	2.6	0.9	6.7	
828	1312	石碗未製品	A3	V	頁岩	4.0	3.0	0.8	9.3	
829	66	尖頭器	A3	V	頁岩	(9.2)	2.3	1.2	(20.2)	先端部・基部欠損
830	67	尖頭器	A2	VI	頁岩	(6.4)	2.4	1.1	(13.1)	先端部・側縁部欠損
831	50	尖頭器	A3	VI	頁岩	(7.8)	2.2	1.1	(18.6)	先端部欠損
832	209	尖頭器	D4	V	頁岩	7.1	2.9	0.8	12.7	先端部有
833	208	尖頭器	D4	VI	頁岩	(3.4)	(2.7)	(1.1)	(10.5)	下半部欠損 先端部欠損有
834	2345	尖頭器	B3	VI	頁岩	(2.7)	3.5	0.8	6.3	下部欠損
835	56	局部磨製尖頭器	B3	IX	緑色燧石	5.4	2.8	0.85	14	
836	1265	尖頭器	A2	VI	赤黒曜石(西北九州)	2.8	3.0	0.7	3.6	試料No.K3H-1044
837	57	尖頭器	A2	VI	安山岩	9.1	2.1	0.7	11	
838	1314	尖頭器	A3	V	安山岩	(2.4)	(2.3)	(1.2)	(6.8)	基部のみ残存
839	36	尖頭器	A1	VI	安山岩	(2.3)	(2.4)	(0.65)	(2.4)	先端部のみ残存
840	44	尖頭研磨器	A3	VI	砂岩	(5.7)	(4.5)	(2.15)	(67.0)	下半部欠損
841	49	尖頭研磨器	A3	VI	砂岩	(6.0)	3.5	2.1	(61.5)	下半部欠損
842	46	尖頭研磨器	A3	VI	砂岩	(7.4)	4.5	2.3	(85.1)	下半部欠損
843	48	尖頭研磨器	A3	VI	砂岩	(5.5)	4.0	2.25	(75.8)	下半部欠損
844	45	尖頭研磨器	A3	VI	砂岩	(5.5)	4.4	2.0	(64.7)	両端部欠損
845	43	尖頭研磨器	A3	VI	砂岩	(6.2)	4.1	1.6	(42.2)	左側縁部・下半部欠損
846	20	尖頭研磨器	A1	VI	砂岩	(4.4)	4.45	1.85	(35.9)	
847	47	尖頭研磨器	A3	VI	砂岩	3.45	4.3	2.9	66.5	
848	1317	石鏃	B3	V	チャート	2.9	1.9	0.8	4.2	
849	1322	石鏃	A3	V	頁岩	(3.5)	2.8	1.1	(11.4)	踵部欠損
850	1316	石鏃	A3	V	安山岩	(2.5)	2.0	0.8	(2.8)	踵部欠損
851	1319	石鏃	A3	VI	安山岩	4.0	1.6	0.3	(1.5)	基部欠損
852	1321	石鏃	A2	V	安山岩	(5.2)	2.9	0.7	(9.3)	踵部・基部欠損
853	39	石鏃	A3	V	安山岩	2.6	1	0.5	1.8	
854	1320	石鏃	A3	VI	安山岩	3.1	1.9	0.6	(2.5)	側縁部のみ残存
855	1315	石鏃	B3	VI	安山岩	(2.7)	2.1	0.9	(3.3)	踵部欠損
856	1318	石鏃	A1	VI	安山岩	(2.4)	(2.1)	0.6	(1.8)	基部欠損
857	236	石鏃	A3	VI	安山岩	(4.5)	(2.5)	0.7	(5.7)	踵部・側縁部欠損
858	1323	石鏃	B3	VI	頁岩	2.7	4.3	0.7	6.1	
859	1325	石鏃	B3	V	燧石	6.9	4.6	0.6	16.1	
860	1333	ステレイバー	A3	V	頁岩	8.4	5.9	1.7	96.0	
861	1328	ステレイバー	D4	V	頁岩	6.9	4.8	2.3	59.0	
862	1324	ステレイバー	B3	V	頁岩	6.3	5.9	1.9	63.5	
863	1330	ステレイバー	A3	V	頁岩	(5.8)	(3.7)	1.6	(27.3)	両端部欠損
864	1326	ステレイバー	A3	V	頁岩	7.5	4.8	2.7	92.5	
865	1332	ステレイバー	A3	V	安山岩	6.5	5.7	1.1	32.7	
866	1331	ステレイバー	A3	VI	安山岩	6.6	4.2	1.2	23.7	
867	1341	ステレイバー	A3	V	安山岩	4.3	2.5	0.7	9.3	
868	1327	ステレイバー	A3	V	安山岩	(4.7)	(3.1)	(0.8)	(7.7)	右側縁部欠損
869	1340	ステレイバー	A3	V	安山岩	(3.5)	2.7	0.7	(7.2)	下部部欠損
870	1339	ステレイバー	A3	V	安山岩	4.3	2.2	0.8	6.8	
871	1338	ステレイバー	A3	V	安山岩	3.9	1.6	0.9	4.9	
872	1336	ステレイバー	A3	V	砂岩	11.7	7.8	2.1	212.3	
873	1335	ステレイバー	A3	V	砂岩	10.2	6.1	2.2	127.5	
874	1343	ステレイバー	B3	IX	砂岩	9.4	6.2	1.4	88.3	
875	1334	ステレイバー	A3	V	砂岩	9.6	5.1	2.1	66.5	
876	1345	ステレイバー	B3	IX	砂岩	6.3	5.4	1.3	34.7	
877	1346	ステレイバー	B3	V	砂岩	9.5	4.9	1.5	78.5	
878	1342	ステレイバー	B3	V	ホルンフェルス	7.3	6.2	0.9	42.5	付着物・磨面有
879	1344	ステレイバー	A4	IX	ホルンフェルス	5.6	5.2	1.3	35.8	先端部有
880	1329	ステレイバー	B3	V	緑色燧石	8.0	4.3	0.8	28.9	
881	1347	ステレイバー	D4	V	頁岩	8.4	4.3	1.5	(62.9)	側縁部欠損
882	1307	ステレイバー	B2	V	頁岩	9.7	5.1	2.2	112.6	
883	2328	丸ノミ型石斧	B3	V	緑色燧石	12.9	3.5	3.3	359.5	先端部有
884	260	丸ノミ型石斧	A3	VI	砂岩	(10.9)	(3.6)	(2.7)	(113.4)	左下部欠損 未製品か
885	76	丸ノミ型石斧	A3	VI	砂岩	15	4.8	2.9	216.3	
886	1351	石斧	B2	V	頁岩	10.5	4.2	1.3	79.6	
887	1352	石斧	D4	V	頁岩	(6.3)	(4.7)	(1.7)	(49.9)	刃部欠損
888	1349	石斧	B1	V	頁岩	10.3	5.7	2.1	159	
889	1354	石斧	A3	V	砂岩	(6.6)	7.1	2.5	(184.9)	基部欠損
890	75	石斧	B3	V	緑色燧石	9.5	4.5	2.3	120.5	
891	1355	鉋石	D4	VI	頁岩	8.0	7.2	3.1	205.7	先端部有
892	1820	鉋石	B3	V	砂岩	(8.25)	(4.4)	2.9	(163.4)	下部欠損
893	1818	鉋石	A3	V	砂岩	15.4	4.5	3.9	414.6	
894	1817	鉋石	A3	V	砂岩	18.7	6.0	2.8	(605.3)	側縁部欠損
895	1819	鉋石・鉋石	A3	V	砂岩	9.0	5.6	2.0	178.7	
896	1815	鉋石・鉋石	A3	V	砂岩	11	9.9	5.4	279.8	
897	1816	鉋石	A2	V	砂岩	10.9	5.15	4.05	262.4	
898	2117	石鏝	A3	VI	砂岩	32	34	9	8200	
899	2118	鉋石・鉋石	A2	V	砂岩	29.25	18.7	12.4	9000	

蛍光X線分析による原産地推定結果あり(※は原産地が判別できなかったもの)

( )の値は残存値を示す



- ① 草創期住居群と作業員さん
- ② 1号住居 検出
- ③ 1号住居
- ④ 2号住居 遺物出土状況
- ⑤ 2号住居 作業風景
- ⑥ 2号住居
- ⑦ 2号住居と作業員さん



図版9 縄文草創期遺構①



①



②



③



④



⑤



⑥



⑦



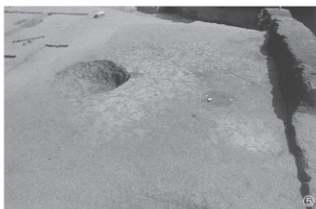
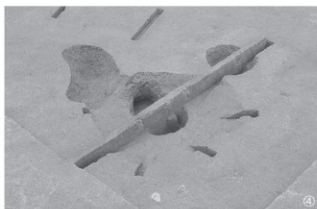
⑧

- ① 2号住居 配石炉 ② 2号住居 配石遺構検出 ③ 2号住居 柱穴6 土層断面  
 ④ 3号住居 ⑤ 3号住居 遺物 (No.265) 出土状況 ⑥ 4号住居 ⑦ 4号住居 炉跡  
 ⑧ 4号住居 遺物 (No.292・293) 出土状況

図版10 縄文草創期遺構②



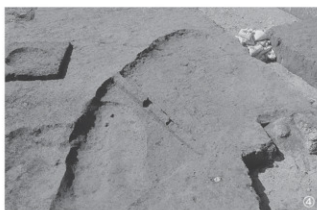
- ① 4号住居
- ② 5号住居 検出
- ③ 5号住居
- ④ 6号住居
- ⑤ サツマ火山灰検出範囲
- ⑥ 7号住居 遺物出土状況
- ⑦ 7号住居 遺物 (No.354) 出土状況



図版11 縄文草創期遺構③

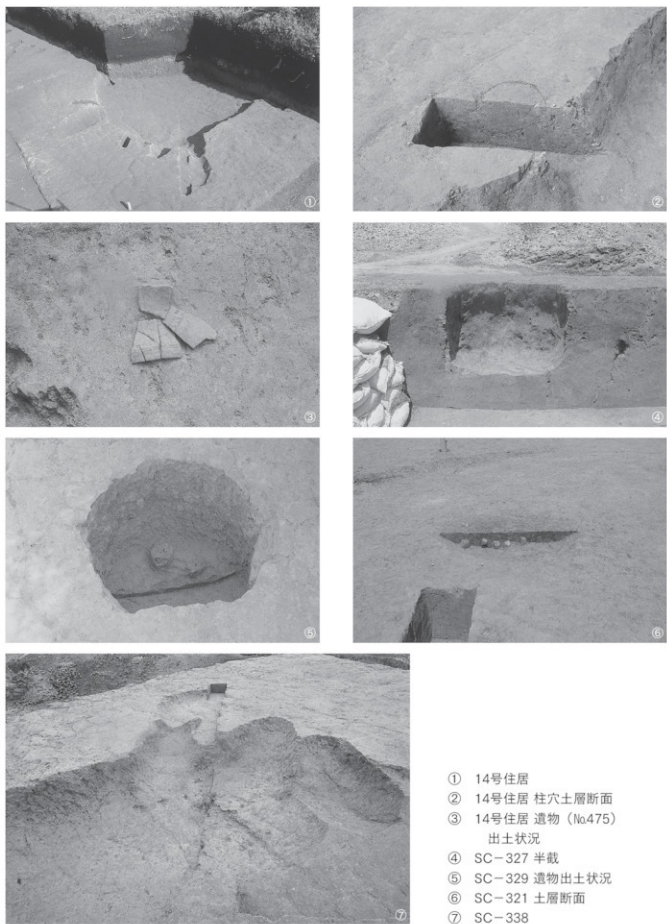


- ① 8号住居 遺物(No.378)出土状況
- ② 8号住居 遺物出土状況
- ③ 7・8・9号住居
- ④ 10号住居
- ⑤ 12号住居
- ⑥ 13号住居
- ⑦ 14号住居 検出



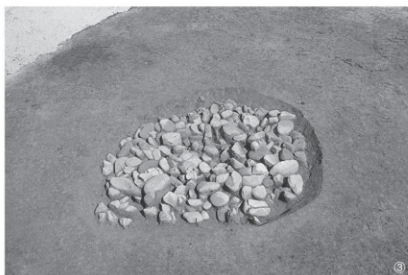
図版12 縄文草創期遺構④



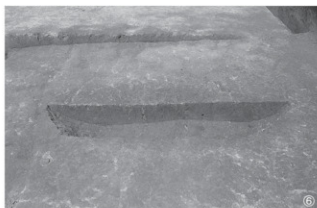


- ① 14号住居
- ② 14号住居 柱穴土層断面
- ③ 14号住居 遺物 (No.475)  
出土状況
- ④ SC-327 半截
- ⑤ SC-329 遺物出土状況
- ⑥ SC-321 土層断面
- ⑦ SC-338

図版13 縄文草創期遺構⑤



- ① SI-55
- ② SI-56
- ③ SI-85
- ④ SI-279
- ⑤ SC-323 土層断面
- ⑥ SC-325 土層断面
- ⑦ SC-342 土層断面



图版14 縄文草創期遺構⑥



① SZ-273    ② SC-29    ③ SC-116    ④ SC-129    ⑤ SC-130    ⑥ SC-190  
 ⑦ SC-202    ⑧ SC-232

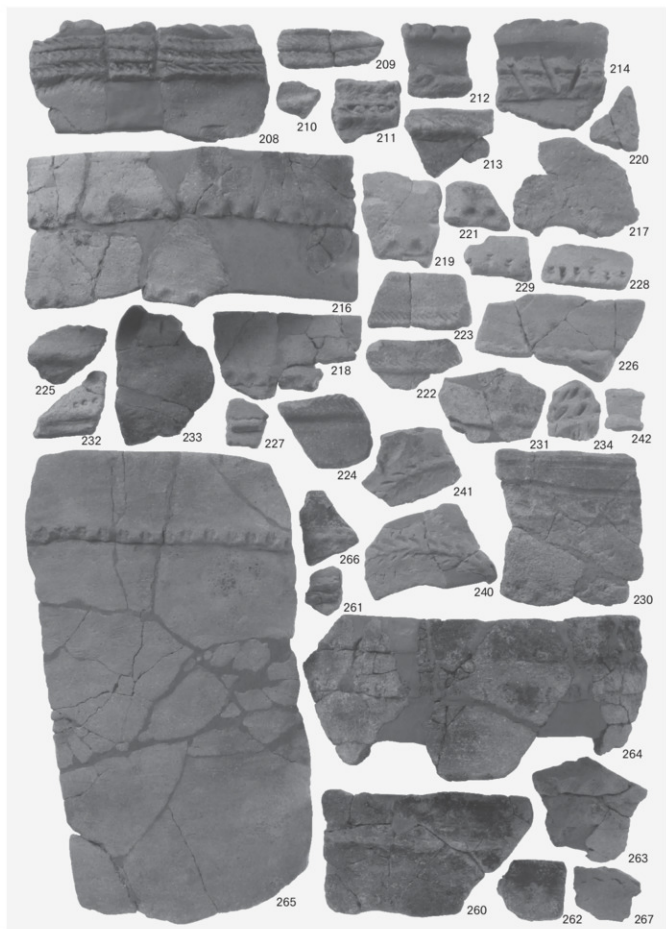
図版15 縄文草創期遺構⑦



- ① SC-313 遺物出土状況
- ② 矢柄研磨器 (No.840) 出土状況
- ③ 矢柄研磨器 (No.847) 出土状況
- ④ 尖頭器 (No.837) 出土状況
- ⑤ ミニチュア土器 (No.717) 出土状況
- ⑥ 丸ノミ型石斧 (No.883) 出土状況
- ⑦ 石斧 (No.886) 出土状況



図版16 縄文草創期遺物出土状況



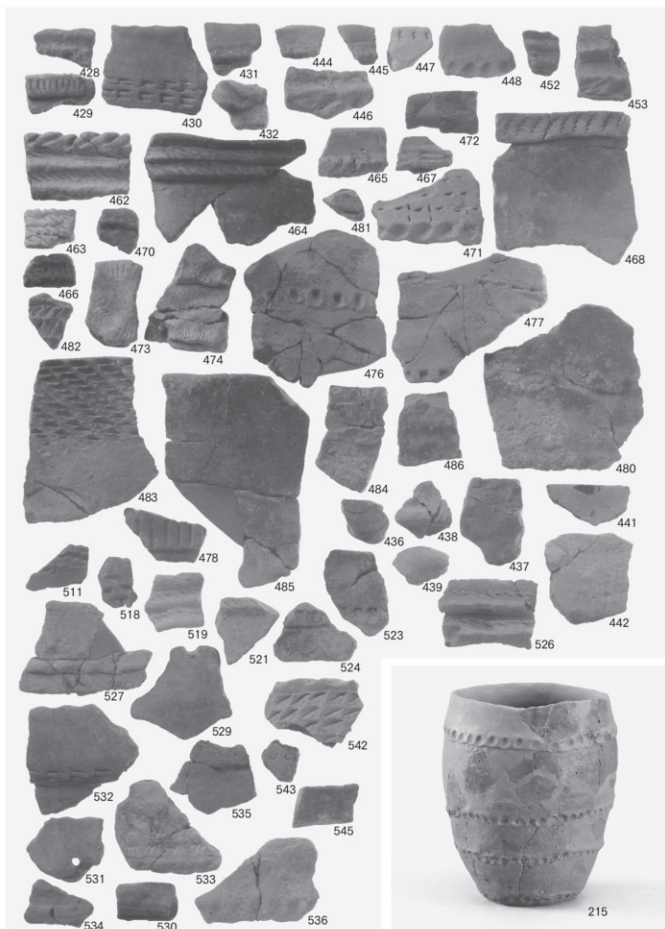
図版17 縄文草創期遺構内出土遺物①



図版18 縄文草創期遺構内出土遺物②



図版19 縄文草創期遺構内出土遺物③

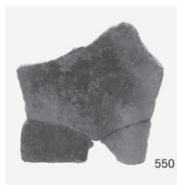
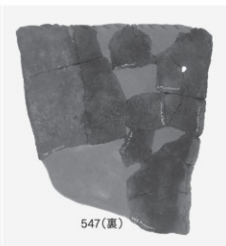
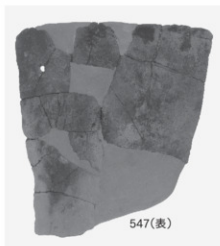
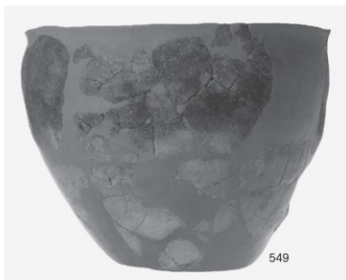


図版20 縄文草創期遺構内出土遺物④

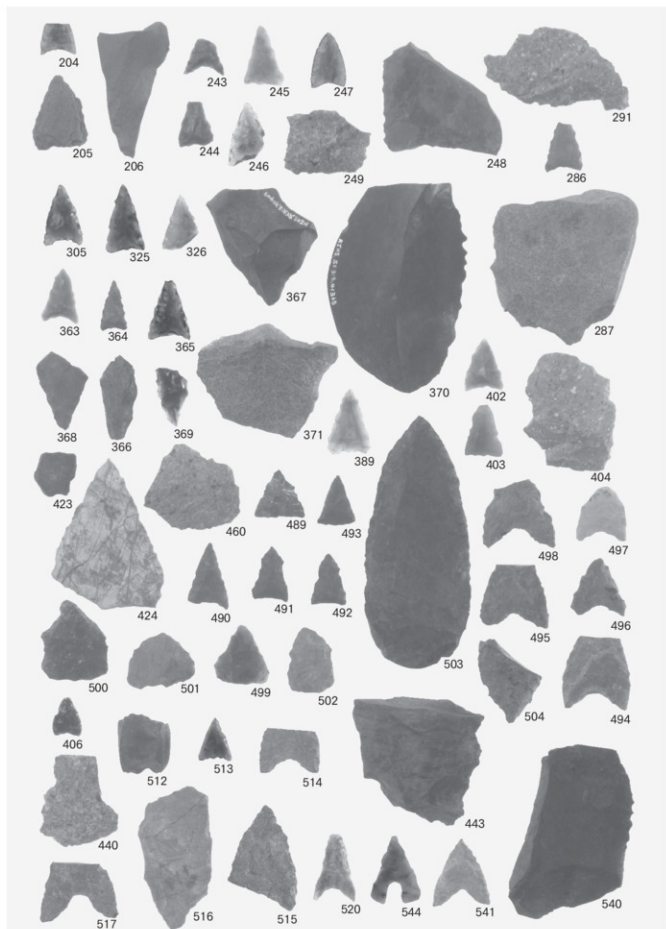




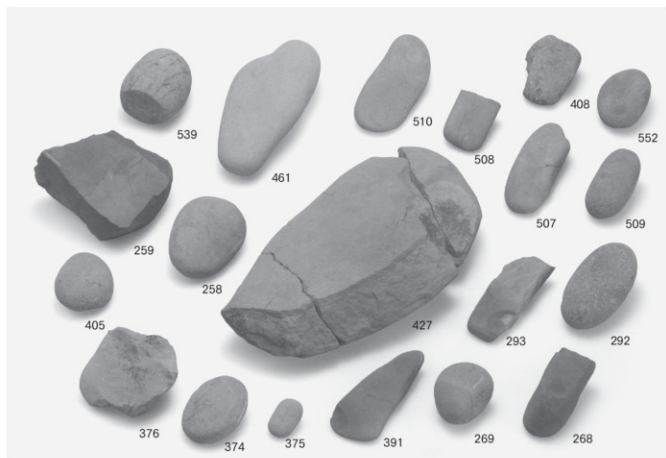
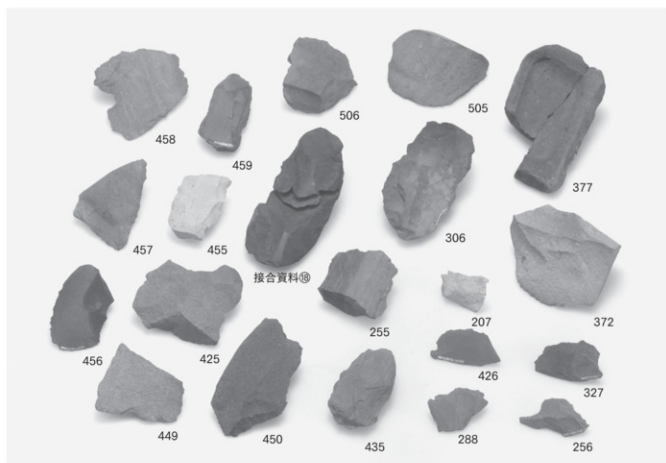
図版21 縄文草創期遺構内出土遺物⑤



図版22 縄文草創期遺構内出土遺物⑥



圖版23 繩文草創期遺構內出土遺物⑦



図版24 縄文草創期遺構内出土遺物⑤



图版25 縄文草創期遺構内出土遺物⑨



图版26 縄文草創期遺構内出土遺物⑩

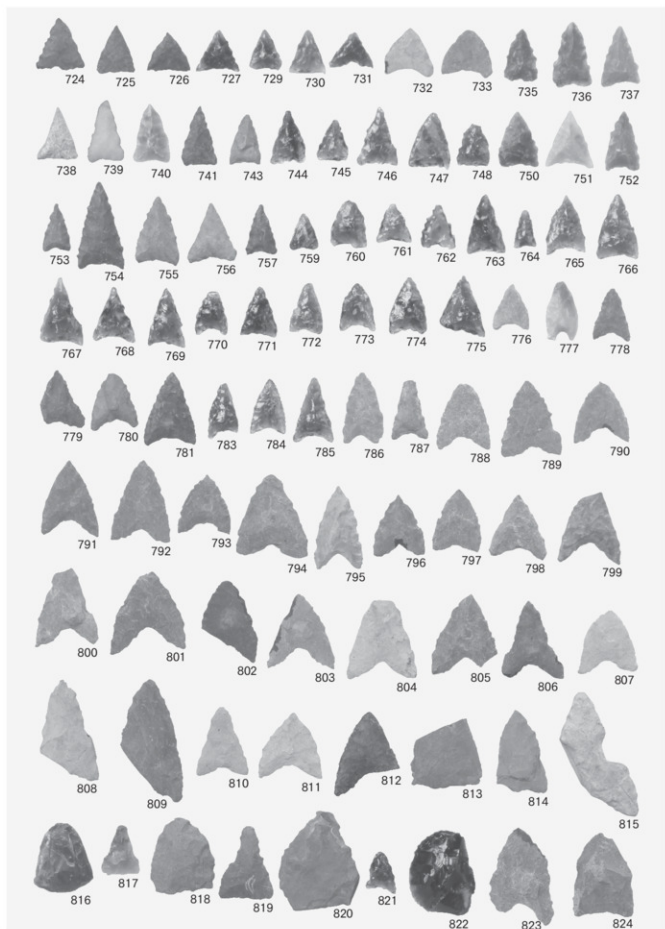


図版27 縄文草創期遺構内出土遺物①

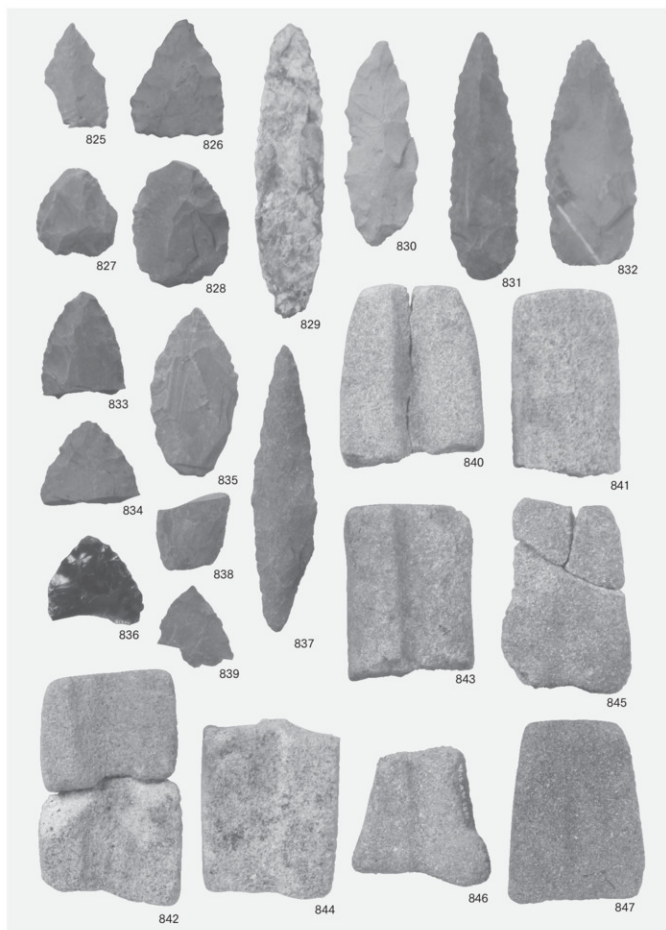


図版28 縄文草創期遺構内出土遺物⑫

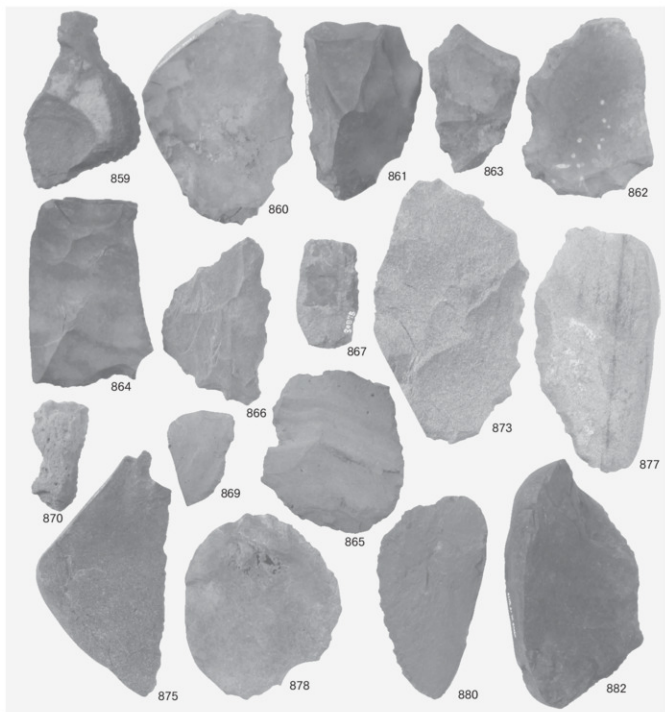
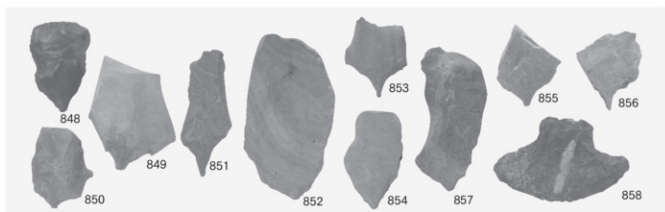




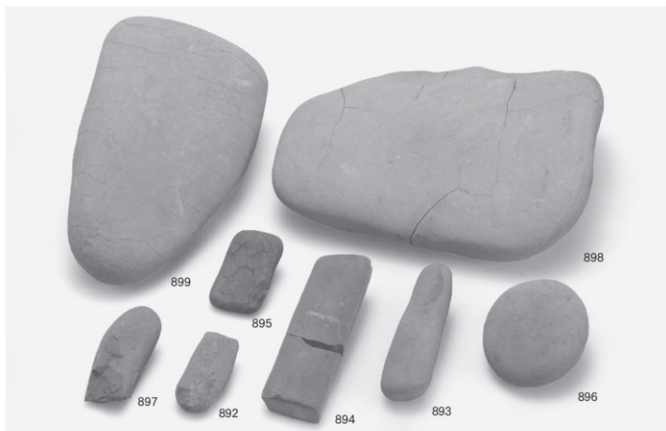
圖版29 繩文草創期遺物包含層出土石器①



図版30 縄文草創期遺物包含層出土石器②



図版31 縄文草創期遺物包含層出土石器③



図版32 縄文草創期包含層出土石器④

## 第IV章 縄文時代早期の調査

### 第1節 遺構の分布状況と遺物包含層の出土状況について

本調査区は南東部から東側に向けて緩やかに下る斜面地であるが、調査区中央付近はほぼ平坦な地形を呈している。縄文時代早期の遺構は基本土層V層からVIII層上部にかけて集石遺構153基(切り合い関係にある不明瞭なものは除く)・炉穴29基(焼燼を数える)・陥し穴状遺構4基・ハイヒール状土坑9基・土坑23基が検出されている。これらは遺物包含層の掘削作業中に随時検出されるもので、各遺構で検出面が異なっている。集石遺構と炉穴については調査区のほぼ全域に広がるが、調査区北部の谷地形になっている部分と縄文草創期の2号竪穴住居跡から7～9号竪穴住居跡が検出された調査区中央の南東部付近には存在しなかった。なお、これらの火を使用したと考えられる遺構から炭化物が多く出土しており、その一部については放射性炭素年代測定を行っている。その他の遺構は調査区の中央よりやや北側付近に多く分布している。前章で述べたとおり、本調査区における縄文早期の確実な文化層としては基本土層V層からVI層までと考えられ、これらの層からは大量の焼燼が出土していて、その点数は19万点を超えている。また遺物も調査区が覆われるように縄文早期初頭から末葉までのものが出土した。出土土器については基本土層V層とVI層で出土する土器の様式が明瞭に分かれるような出土状況ではなかった。しかし、貝殻文の塞ノ神式土器や早期末糸痕文土器は比較的VI層よりもV層で多く出土しており、前平式土器や帯状施文の押型文土器・条痕文土器などはVI層で多く出土するという傾向は確認できた。

### 第2節 遺構について

#### 1. 集石遺構

集石遺構は基本土層V層からVI層にかけて検出されている。本調査区ではおおむね掘り込みを持ち、その中に焼燼が多く見られる遺構である。遺構の中で最も数が多く、切り合い関係も多数見られ、明確に検出面にレベル差を持つものも存在した。このことは時期差を持つ土器が遺物包含層から出土しており、視覚的にはとらえることが難しい何枚かの生活面が存在したということを示していると言える。前述したように多数の礫や遺物が混入する遺物包含層の掘削作業中に検出されるため、SI-27・71・81・107・175・207・209・243・235・272・274・315は掘り込みが認識される前に遺物包含層として一部を掘削してしまうというトラブルも発生してしまった。

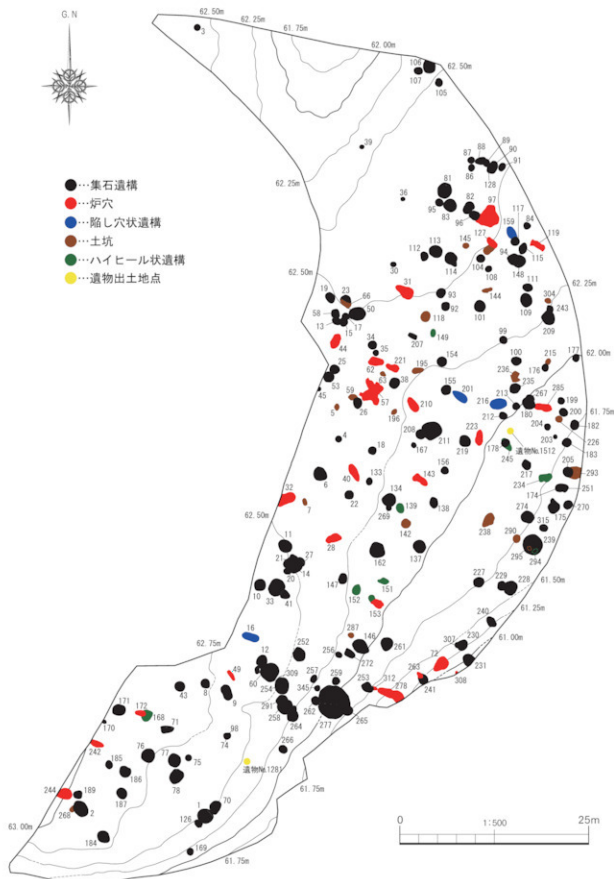
集石遺構は掘り込みを持つものと持たないもの、礫が密集するものと疎らなもの、底石を持つものと持たないもの、掘り込みの平面プランや断面形状等、これまでの研究で様々な分類基準が設けられている。また、構成礫が掘り込みの床面に接するものと礫と床面との間に厚く埋土が堆積するものとが見られる。これについても分類基準になるかもしれない。いずれにせよ遺跡で検出される集石遺構は廃棄された状態であり、使用状況そのものを示すものではない可能性があることは念頭に置いておく必要があるだろう。特に疎らな集石遺構は最初から使用礫が少ないわけではなく、使用礫を他の場所に移動させた結果や底石を取り除いた結果を示している可能性も考えられる。また、構成礫の下の埋土の厚さは使用頻度の高さを表しているかもしれない。

以下に特徴的な集石遺構について所見を報告する。なお、出土遺物については土器を中心に報告し、石器については製品類に言及している。遺物や放射性炭素年代測定結果だけを報告する集石遺構は後方にまとめている。なお、個別の詳細については第7表を参照していただきたい。

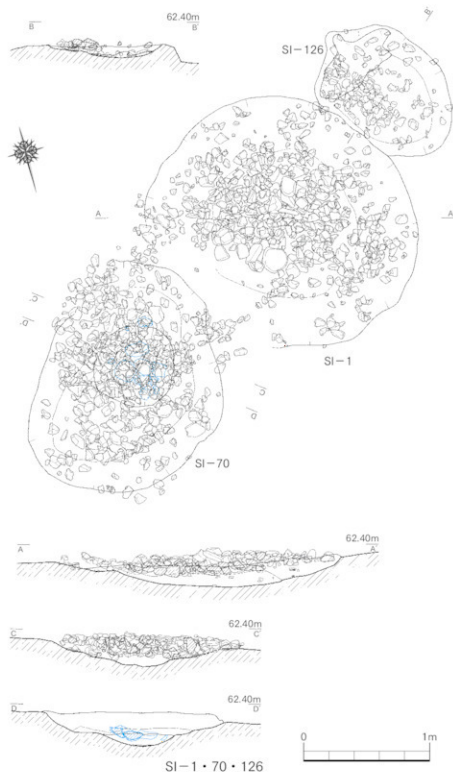
#### 【特徴的な集石遺構】

SI-1・70・126は切り合い関係にあり、SI-1が最も新しい。SI-1からは土器片16点(別府原式1、不明15: 隆帯文の無文部位を含む)、尾鈴山酸性岩製磨石片1点等が出土している。SI-70からは土器片12点(下剥峯式1、押型文1: 950、不明10: 無文土器と段線文土器を含む)、石鏃4点(チャート3: 951・952、安山岩1: 953)、西北九州産黒曜石製細石刃1点(954)等が出土している。SI-126からは土器片2点(下剥峯式1: 984、不明1)等が出土している。なお、この3基は周辺の多くの石器を含む草創期の遺物包含層を掘りぬいているため、多くの剥片類が混入していた。またSI-1の掘り込みの下位からは草創期の矢柄研磨器片(Na 842の上部)が出土している。

SI-3は比較的礫の出土数が少ない調査区北側で検出された。やや大振りの礫が密集する様子が見られたので集石遺構として図化を行った。掘り込みが検出されなかったので礫の除去後、トレンチを設定して土層断面によ



第120図 縄文時代早期遺構配置図 (S=1/500)



第121図 縄文早期集石遺構実測図① (S=1/30)

918、不明2：隆帯文の無文部位を含むか）、チャート製石蔵未製品1点(919)等が出土している。SI-21からは土器片11点(別府原式1、桑ノ丸式2:920、押型文5:921～924、不明3)、西北九州産黒曜石製石蔵1点(925)等が出土している。SI-27からは下剝峯式土器片1点(932)が出土している。

SI-15・17は切り合い関係にあり、礫の充填状況からSI-15が最も新しく、SI-17はSI-50を切っている。SI-15は掘り込みの床と礫との間に埋土が厚く堆積しており、掘り込みの形状と礫の断面形状が異なっており、炭化物は補正年代で8350±30BPであった。

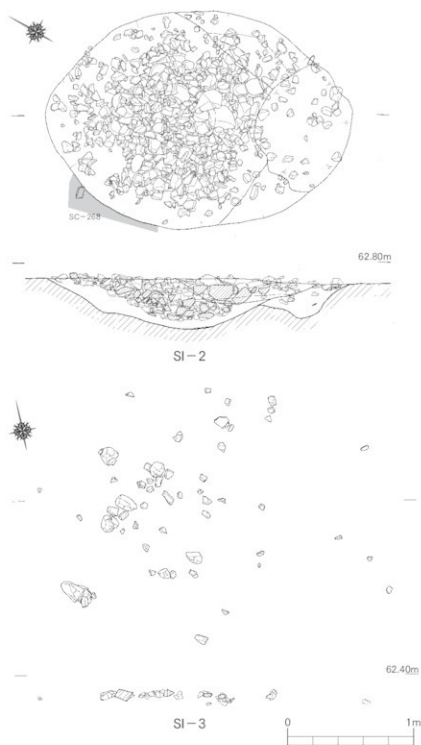
SI-23はSC-66に切られていた。当初はSI-23だけの遺構と認識しており、その掘り込みを完掘したとこ

る掘り込みの確認も行ったが、遺構の立ち上がりを示すような土層は確認されなかった。

SI-4も掘り込みが確認されなかった。礫周辺から不明土器片3点(無文土器か)等が出土している。また炭化物の放射性炭素年代測定の結果、補正年代で7900±30BPという年代が得られた。

SI-9は2基の集石遺構の切り合うもので、東側の礫が密集する方が先に検出され、その上部礫を除去し、掘り込みの掘削中に西側にも礫の疎らな集石遺構があることを認識することとなった。東側は二段掘りの掘り込みである。土器片(押型文1:908、無文土器:909、不明3:無文土器を含むか)、頁岩製石錐1点(910)等が出土している。

SI-14・20・21・27は当初2mを超える集石遺構(SI-14)が1基だけ存在しているものと認識しており、掘り込みの埋土の掘削中にSI-14の周囲に複数の集石遺構が存在することが判明した。その時には既にSI-27の東側の大部分を遺物包含層として掘削してしまっていた。SI-14の北側にある径0.66mの掘り込みも別の集石遺構の可能性がある。SI-14からは土器片17点(下剝峯式2:912・913、桑ノ丸式1:914、押型文2:915、条痕文土器2類1、隆帯文:2類3・4類1:916、不明7:無文土器と隆帯文の無文部位を含むか)等が出土している。また炭化物は補正年代で8770±40BPであった。SI-20からは土器片4点(押型文2:917・



第122図 縄文早期集石遺構実測図② (S=1/30)

SI-86～91・128は調査区北東部端で密集して検出された。SI-128はSI-90の調査終了後にその下位から発見されたもので両者の検出面には明確なレベル差がある。SI-128以外は礫が疎らな集石遺構である。SI-88～90は切り合い関係にあったが新旧関係を把握することはできなかった。SI-89からは不明土器片1点(別府原式か)、SI-90からは下刺釜式土器片1点(969)が出土している。

SI-94・148は切り合い関係にある。SI-148はSI-94の調査終了後にその下位から発見されたもので両者の検出面には明確なレベル差がある。SI-94からは土器片2点(別府原式1:971、押型文1:972)が、SI-148からは土器片(前平式1:1000、塞ノ神式1:1001)、砂岩製石皿1点が出土している。1000は前平式土器の口縁部片で基本土層VI層中の遺物と接合した。反転復元による口縁部径は19.1cmを測る。

ろで、床面にSC-66のプランが検出されたため2つの遺構が切り合っていたことが分かった。そこで、SI-23の礫の充填状況を見るとSC-66にかかる部分にだけ礫が少なくなっていることから、両者の新旧関係を前述のように把握することとなった。押型文土器片1点(928)等が出土している。

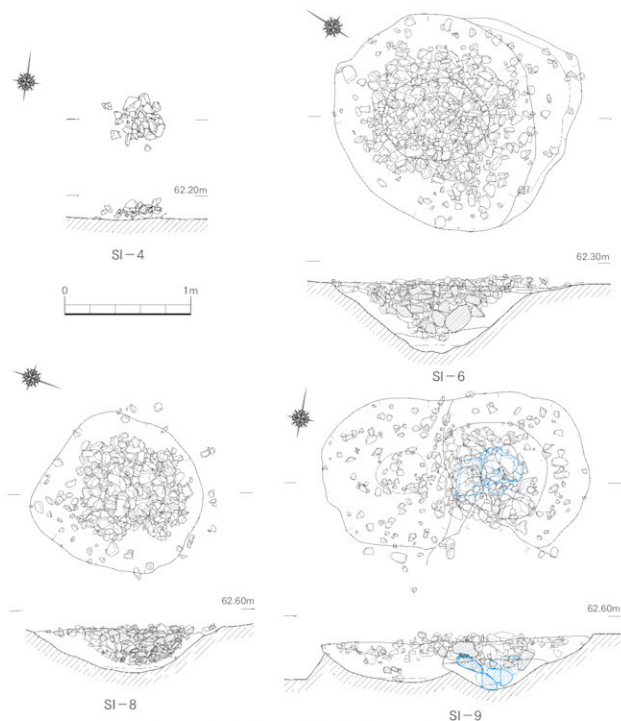
SI-26はSC-59を切っている。押型文土器片1点(931)、桑ノ木津留産黒曜石製石鏃(930)等が出土している。なお931はSC-28と接合関係にある。

SI-33は二段の掘り込みを呈し、下部掘り込みの上面付近に底石が有り、その下位には小礫が数点だけ見られる。土器片7点(下刺釜式1:933、桑ノ丸式1:934、条痕文土器1類1:935、不明4:無文土器を含むか)等が出土している。

SI-60はSI-12に切られており、西側にSI-140が近接するが、その間には2基の掘り込みが存在した。SI-60の掘り込みの完掘した後でこの2つの掘り込みに気が付いたので、これらはSI-60に伴う施設の可能性もあるが、周囲の礫の重鎮状況を見るとこの部分だけ礫が少なくなっている。その状況からこれらはSI-60を切る集石遺構か土坑であった可能性が考えられる。SI-60からは土器片26点(下刺釜式3:943・944、桑ノ丸式1、押型文2:945・946、隆帯文:4類3:947、不明17:無文土器と隆帯文の無文部位を含むか)、頁岩製石鏃(948)と石錐(949)各1点等が出土している。946の反転復元による底部径は5.4cmを測る。

SI-82は東側にあるSI-96を切っている。北東側にテラスが見られるが、別の集石遺構との切り合い関係にある可能性も考えられる。別府原式土器片1点が出土している。





第123図 縄文早期集石遺構実測図③ (S=1/30)

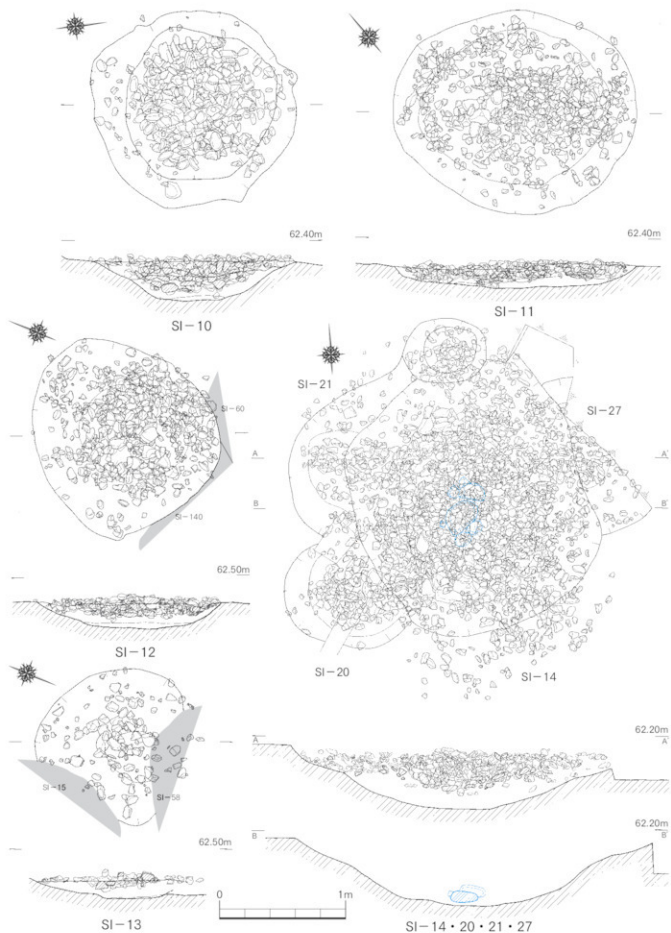
SI-96 は炉穴(SC-97)の西側で、その上位にて検出されており、両者の検出面には明確なレベル差がある。また SI-82 には切られている。下刺釜式土器片 1 点(973)が出土している。

SI-99 は西側に押型土器の破片(974・975)を大量に含んでいた。その他に土器片 2 点(条痕土器 2 類 1、不明 1)等が出土している。974 と 975 は接合しなかったが同一個体と考えられる。反転復元による 974 の口縁部径が 28cm、975 の底部径は 8.6cm を測る。

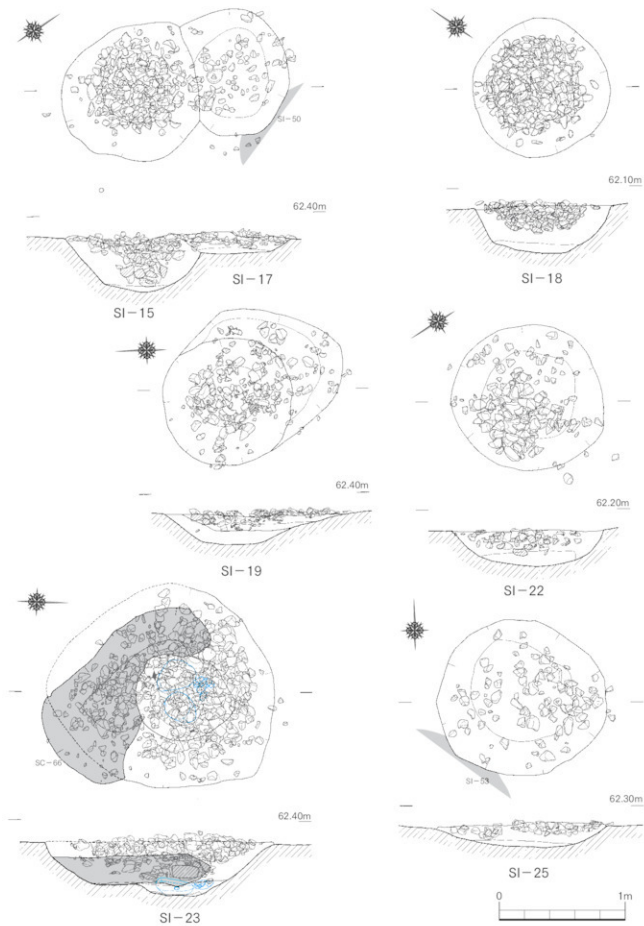
SI-147 は北側にテラス状の平坦面が見られるが、別の集石遺構との切り合いであった可能性も考えられる。不明土器片 3 点、チャート製石鏝 1 点(999)が出土している。

SI-171 は掘り込みの外縁に大振りの礫が 8 点見られた。不明土器片 1 点、砂岩製スクレイパー 1 点(1005)、砂岩製敲石 3 点(1006・1007)等が出土している。

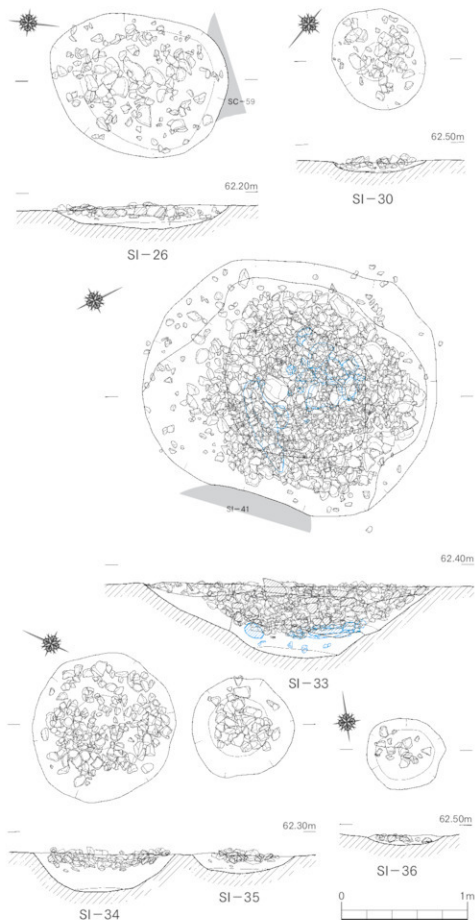
SI-174・251 は切り合い関係にある。検出時には新旧関係を把握できなかったが、礫の充填状況を見ると SI-



第124図 縄文早期集石遺構実測図④ (S=1/30)



第125図 縄文早期集石遺構実測図⑤ (S=1/30)



第126図 縄文早期集石遺構実測図⑥ (S=1/30)

174の方が晰しいと考えられる。SI-174からは不明土器片1点が出土している。SI-251からは土器片6点(押型文3:1045・1046、不明3:隆帯文の無文部位か)、頁岩製磨製石鏃1点(1047)等が出土している。

SI-175は不整形な柄杓状のプランを呈するが、礫の充填状況を見ると2基の集石遺構の切り合いの可能性も考えられる。北側は遺物包含層として一部を掘削してしまっていた。土器片8点(押型文3:1008・1009、隆帯文2類2、不明4:隆帯文の無文部位を含むか)、チャート製石鏃1点等を出土している。

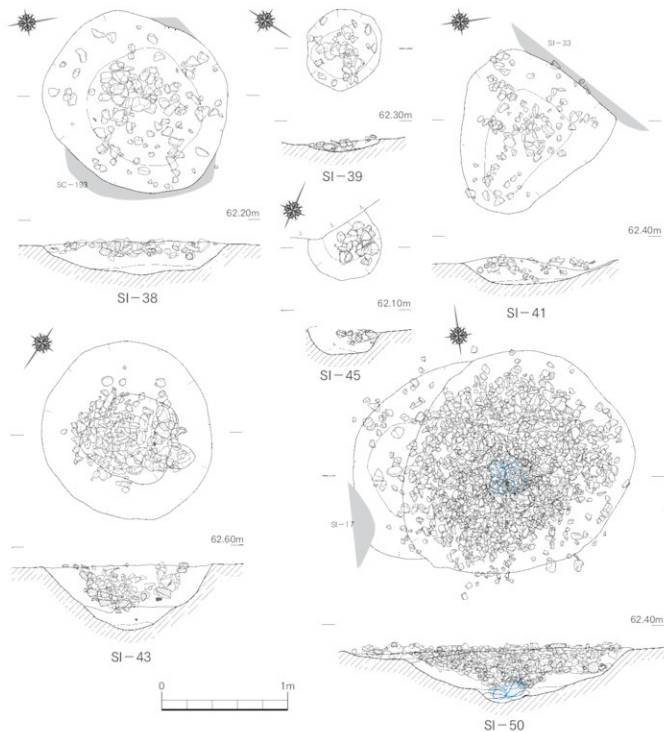
SI-177は中央部に底石のような扁平な礫があり、その周囲に少量の礫が存在するもので集石遺構の底の部分とも見えるものである。押型文土器片1点等が出土している。

SI-180・267は切り合い関係にある。SI-267はSI-180の調査終了後にその下位から発見されたもので両者の検出面には明確なレベル差がある。SI-180からは土器片2点(押型文1:1012、不明1)、桑ノ木津留産黒曜石製石鏃未製品1点等が、SI-267からは不明土器片1点(隆帯文の無文部位か)が出土している。1012の反転復元による底部は15.6cmを測る。

SI-199は大振りの凝灰岩の角礫と砂岩の円礫を構成礫の中心とする集石遺構である。

SI-230・307は切り合い関係にある。SI-307はSI-230の調査終了後にその下位から発見されたもので両者の検出面には明確なレベル差がある。SI-230からは不明土器片1点等が出土している。

SI-240は不整形円形プランを呈する。礫は南側に密集

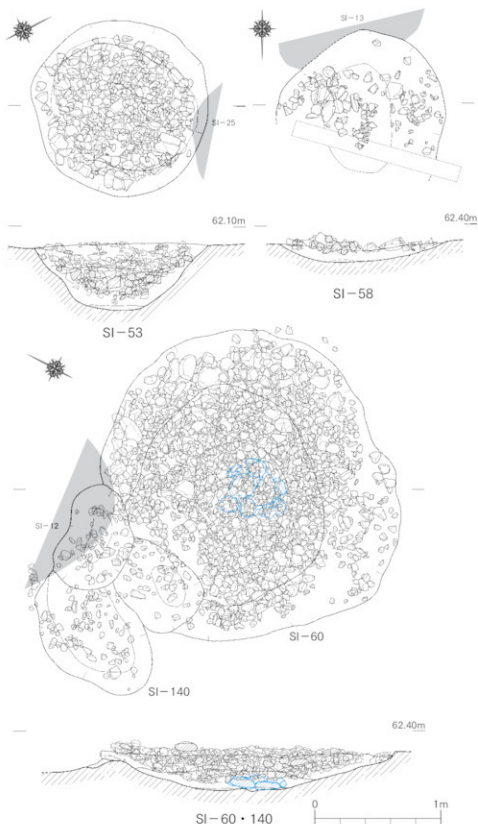


第127図 縄文早期集石遺構実測図⑦ (S=1/30)

して床面は南側に下がっていることから2基の遺構の切り合いの可能性も考えられる。土器片2点(塞ノ神式1:1043、不明1:隆帯文の無文部位か)等が出土している。

SI-241は炉穴(SC-263)の西側にあり、その足場部分を切っていた。そのため、SC-263の平面プランは不明瞭であったが、1箇所設定されていた燃焼部の残存状況は良く、その検出面からの深さは50cmを測る。SI-241の底石はSC-263の燃焼部より18cmも浮いた状態になることから、その掘り込みを再利用したのではなく、SC-263が廃棄されて埋没した後に構築されたものと考えられる。なお、SI-241の炭化物は補正年代で $8340 \pm 50$ BPであった。SI-241からは不明土器片4点等が出土しており、SC-263からは不明土器片1点、チャート製剥片1点が出土している。

SI-253は草創期のSI-279とSC-312を切っていた。不整形な楕円形プランで西側が一段低くなることか



第128図 縄文早期集石遺構実測図⑧ (S=1/30)

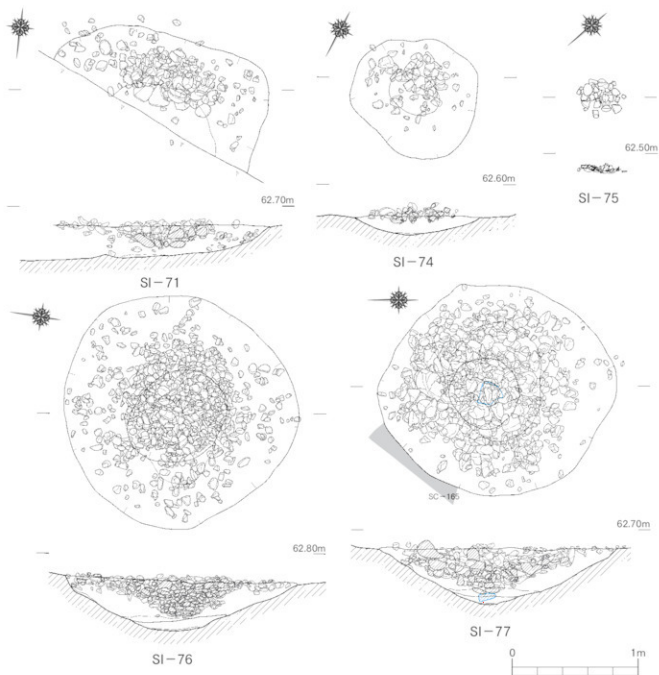
ノ神式1:1081、不明2:隆帯文の無文部位か)、砂岩製敲石1点等が出土している。

SI-277は草創期の10号・11号・13号住居跡、SC-342・350を切っており、平面の検出状況からSI-262・265に切られていたことがわかっている。直径4mを超える集石遺構であり、全国的にみても最大規模のものであろう。掘り込みは本遺構を覆っていた大量の焼礫を何度か除去しながら精査を繰り返して、ようやく検出に至

ら2基の集石遺構が切り合っている可能性が考えられる。炭化物は補正年代で8300±50BPであった。土器片8点(押型文1、隆帯文:2類1・4類1、不明5:隆帯文の無文部位を含むか)、頁岩製石鏃1点等が出土している。

SI-254・258・264・291は北西から南東にかけて並んで検出された。SI-254以外は切り合い関係にあって、3基の礫の充填状況を見るとSI-258が最も新しいと考えられる。なお、SI-258・264は掘り込みにテラスが見られるが、これらは別の集石遺構との切り合いであった可能性も考えられる。SI-254からは土器片27点(別府原式2、下剥傘式1:1050、桑ノ丸式1:1051、押型文4:1052・1053・1055、塞ノ神式2:1054、隆帯文:2類1、不明16:隆帯文の無文部位を含むか)、チャート製石鏃1点、砂岩製敲石1点、砂岩製石皿2点等が出土している。SI-258からは土器片4点(桑ノ丸式1:1056、押型文1:1057、不明2:隆帯文の無文部位を含むか)、石鏃2点(チャート製1:1058、桑ノ木津留産黒曜石製1:1059)が出土している。

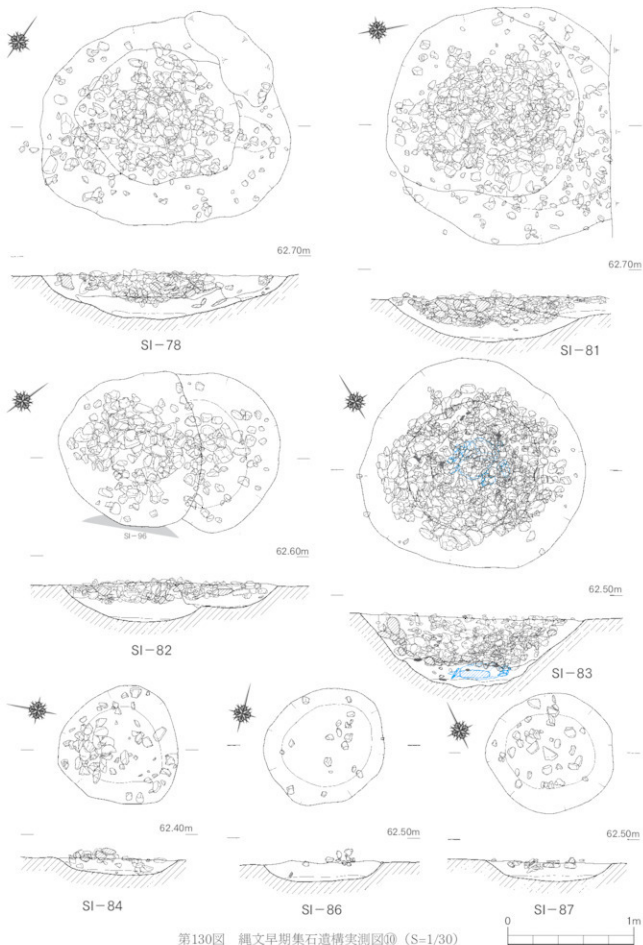
SI-264からは土器片19点(別府原式1、下剥傘式2:1066・1067押型文9:1068~1071、条痕文土器2類1:1072、不明6:隆帯文の無文部位を含むか)、桑ノ木津留産黒曜石製石鏃1点等が出土している。SI-291からは土器片6点(下剥傘式3、塞



第129図 縄文早期集石遺構実測図⑨ (S=1/30)

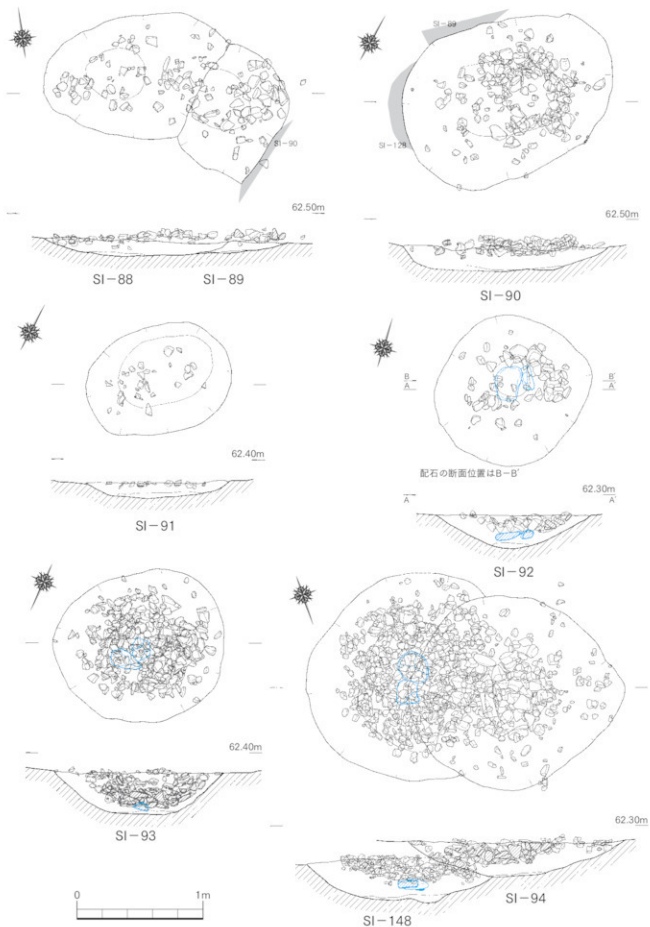
ったもので、本来の使用面より検出面は低く、使用礫も少ない記録状況となっている可能性がある。掘り込みの形状は2段掘りを呈しており、下部の掘り込みにも礫が密に充填されていたが、底石は見られなかった。なお、下部掘り込みでは西側の方にやや大きめの礫が集まっているようである。下部掘り込みから出土した炭化物は補正年代で  $8450 \pm 40\text{BP}$  であった。土器片 117 点(下剥峯式 4 : 1075、桑ノ丸式 2 : 1076、押型文 3 : 1078 ~ 1080、摺糸文 1 : 1077、隆帯文 : 2 類 5 : 1073・1074・4 類 9、不明 : 95 隆帯文の無文部位を多く含むか)、石鏃 2 点(チャート 1、桑ノ木津留産黒曜石 1)等が出土している。草創期の遺構を多く切っているため、隆帯文土器が多く混入していた。1074 は隆帯文土器 2 類にあたるが、草創期の遺物包含層・遺構内からは出土していないタイプのものである。口唇部に隆帯を巡らせてその上おそらく貝殻の押し引き文を施し、その下位にはつまみによる隆帯を巡らせる。また口縁部内面にも隆帯を持つ。反転復元による口縁部径は 27.8cm を測る。

SI-315 は床面に掘り込みがあり、ハイヒール状土坑の可能性も考えられるが、多量に礫が混入していたので集石遺構と分類した。土器片 16 点(押型文 4 : 1082・1083、不明 12)、桑ノ木津留産黒曜石製石鏃 1 点(1084)、砂岩製敲石 1 点等が出土している。

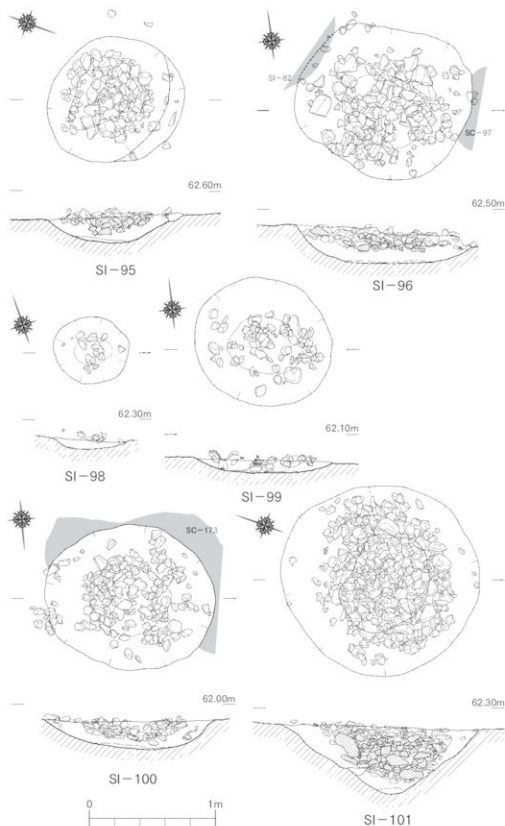


第130図 縄文早期集石遺構実測図⑩ (S=1/30)





第131図 縄文早期集石遺構実測図① (S=1/30)



第132図 縄文早期集石遺構実測図⑫ (S=1/30)

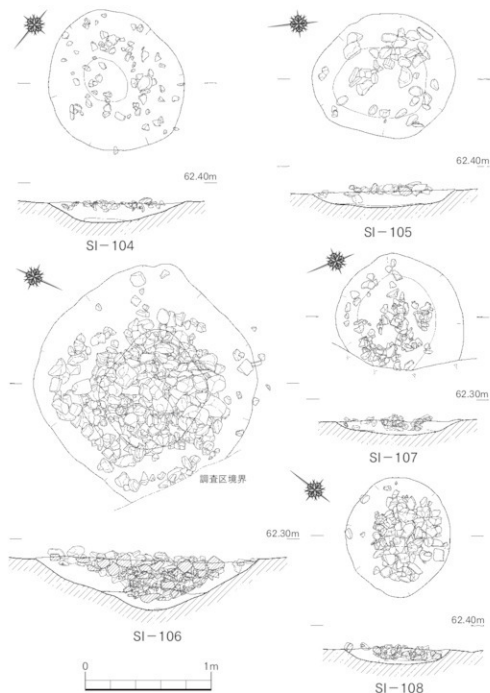
SI-22 は土器片 4 点(押型文 3 : 926・927、条痕土器 2 類 1)が出土しており、炭化物は補正年代で 8370 ± 40BP であった。SI-25 は下剥峯式土器片 1 点(929)等が出土している。

SI-34 は土器片 2 点(押型文 1 : 936、不明 1 : 前平式か)等が出土しており、炭化物は補正年代で 8100 ± 50BP であった。SI-35 は押型土器片 1 点(937)等が出土しており、炭化物は補正年代で 8170 ± 50BP であった。

【出土遺物と炭化物の放射性炭素年代測定結果がある集石遺構】

SI-2 は土器片 6 点(下剥峯式 3 : 900 ~ 902、不明 3)、真岩製スクレイパー (903) 等が出土している。SI-6 は土器片 4 点(加栗山式 2 : 904、別府原式 1、押型文 1 : 905)、チャート製石鏝 1 点(906)、砂岩製磨石 1 点等が出土しており、炭化物は補正年代で 8790 ± 40BP であった。SI-8 は土器片 11 点(別府原式 2 : 907、不明 9 : 無文土器を含むか)等が出土しており、炭化物は補正年代で 8790 ± 50BP であった。

SI-10 は土器片 3 点(条痕土器 2 類 1 : 911、不明 2 : 無文土器を含むか)が出土しており、炭化物は補正年代で 8800 ± 40BP であった。SI-11 は土器片 2 点(塞ノ神式 1、不明 1)、チャート製石鏝 1 点等が出土している。SI-12 は土器片 5 点(塞ノ神式 1、不明 4)が出土している。また炭化物は補正年代で 8550 ± 40BP であった。SI-13 は SI-15・58 に切られており、炭化物は補正年代で 8350 ± 30BP であった。SI-18 は不明土器片 4 点(隆帯文の無文部位か)が出土しており、炭化物は補正年代で 9470 ± 40BP であった。SI-19 の炭化物は補正年代で 8760 ± 40BP であった。



第133図 縄文早期集石遺構実測図⑬ (S=1/30)

器片1点(隆帯文の無文部位か)、石鏝2点(チャート製:964、安山岩製:965)等が出土している。

SI-81は土器片3点(別府原式1、押型文1、塞ノ神式1)が出土している。SI-83は別府原式土器2点(966)、チャート製石鏝未製品(967)等が出土している。SI-84は土器片5点(別府原式2:968、塞ノ神式3)が出土している。

SI-92は塞ノ神式土器片1点、チャート製石鏝(970)等が出土している。SI-98は頁岩製石鏝1点が出土している。

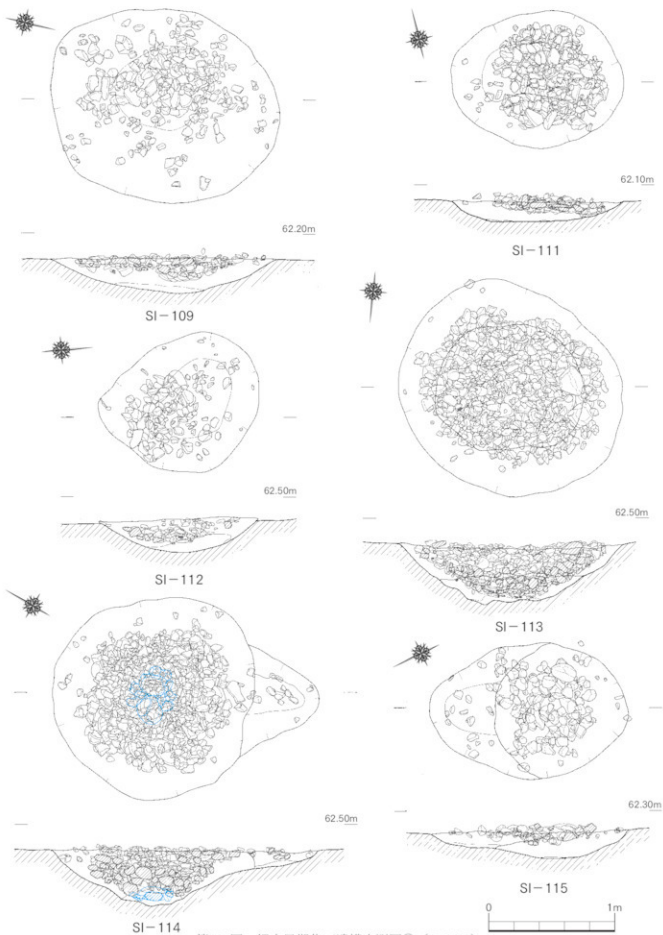
SI-100は桑ノ木津留産黒曜石製石鏝(976)と頁岩製スクレイパー(977)が各1点出土している。SI-101は無文土器2類片1点、チャート製石鏝1点等が出土している。SI-105は砂岩製敲石と磨石が5点(978・979)出土している。SI-106は別府原式土器片1点が出土しており、炭化物は補正年代で8720±50BPであった。SI-109は土器片2点(別府原式1:981、押型文1:980)等が出土している。980は押型文土器4類の口縁部片で反転復元による径は37.2cmを測る。

SI-38は土器片3点(押型文1:938、条痕文土器2類1:939、不明1)等が出土している。

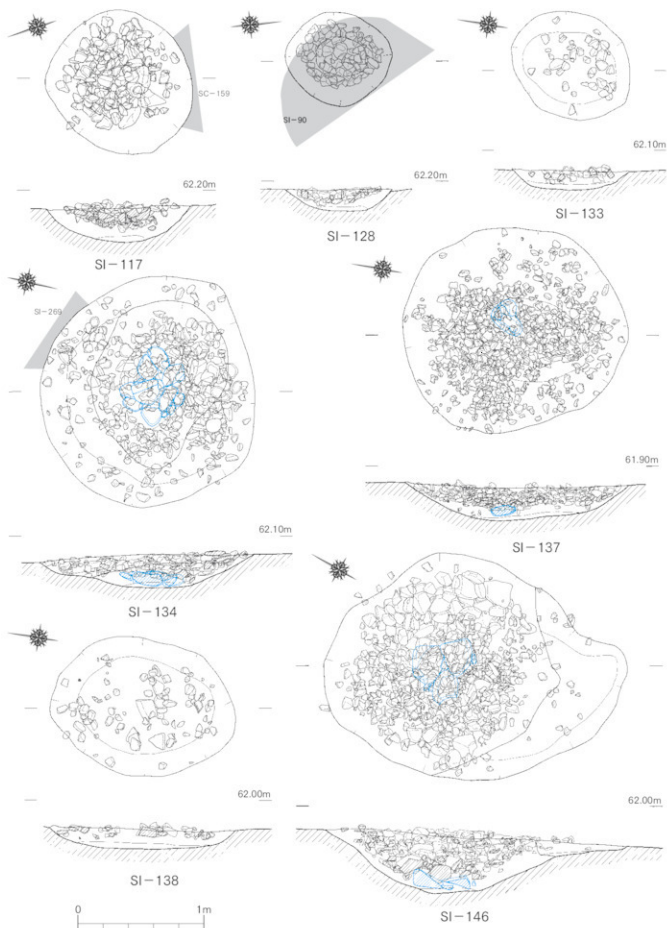
SI-41は土器片2点(桑ノ丸式1:940、不明1)が出土している。SI-43は桑ノ丸式土器片1点(941)が出土している。SI-45の炭化物は補正年代で8140±50BPであった。

SI-53はSI-25に切られていた。土器片2点(押型文1:942、不明1)が出土しており、炭化物は補正年代で8300±50BPであった。

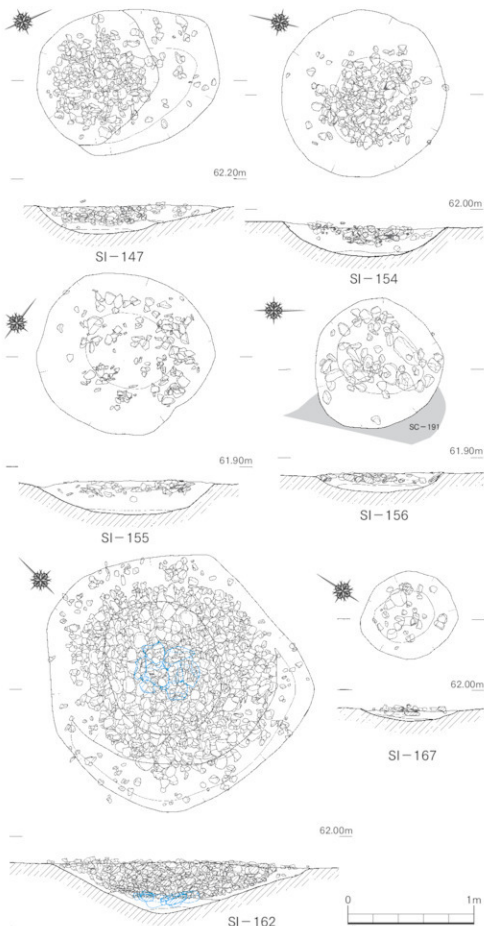
SI-71は土器片15点(塞ノ神式1:955・不明13:無文土器を含むか)等が出土している。SI-74は土器片6点(下剥峯式1:956、押型文1:957、不明4)、尾鈴山酸性岩製磨石1点等が出土している。SI-75は土器片2点(桑ノ丸式1:958、不明1)等が出土している。SI-76は土器片4点(押型文1:959、不明3:隆帯文の無文部位を含むか)等が出土している。SI-77は土器片9点(別府原式1:961、条痕文土器2類1:960、不明7:無文土器と隆帯文の無文部位を含むか)、安山岩製石鏝2点(962・963)等が出土している。SI-78は不明土



第134図 縄文早期集石遺構実測図④ (S=1/30)



第135図 縄文早期集石遺構実測図⑮ (S=1/30)



第136図 縄文早期集石遺構実測図⑤ (S=1/30)

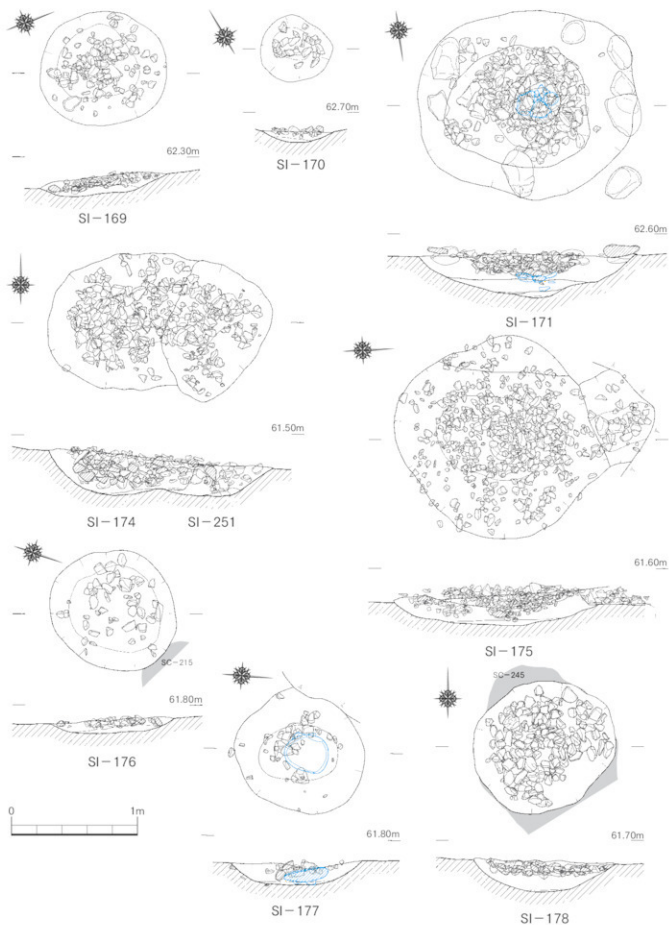
SI-111は押型文土器片1点(982)が出土している。SI-112は押型文土器片1点が出土している。SI-113は別府原式土器片1点が出土しており、炭化物は補正年代で $8020 \pm 50BP$ であった。SI-115は土器片2点(押型文1:983、不明1)が出土している。SI-117は不明土器片1点が出土している。

SI-133は土器片2点(別府原式1:986、押型文1:985)が出土している。SI-134は押型文土器片1点(987)が出土している。SI-137は土器片2点(別府原式3:988、下刺峯式1:989、押型文6:990・991、隆帯文:2類2・4類1、爪形文1類1、不明16:隆帯文の無文部位を含むか)、チャート製石鉄2点(992・993)等が出土している。SI-138は押型文土器片1点(994)、チャート製石鉄1点等が出土しており、炭化物は補正年代で $8690 \pm 50BP$ であった。

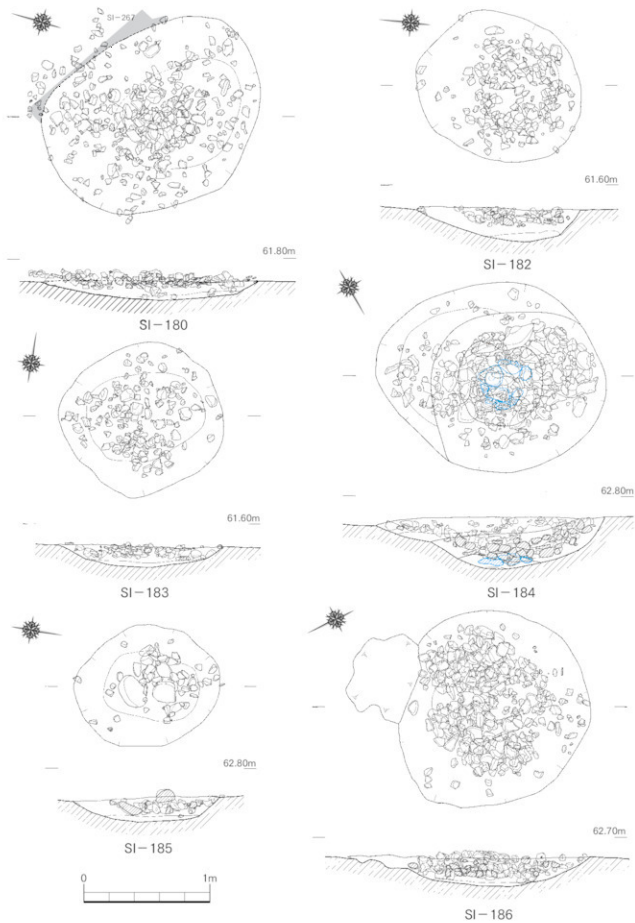
SI-146は土器片6点(押型文3:995~997、縄文施文1:998、無文土器1:内面丹塗りか、不明1:桑ノ丸式か)等が出土している。

SI-154は土器片3点(塞ノ神式1:1002、不明2)が出土している。SI-155は不明土器片1点(別府原式か)等が出土している。SI-156は不明土器片2点(無文土器か)が出土している。

SI-162は土器片6点(押型文1:1003、不明4:桑ノ丸式や隆帯文の無文部位を含むか)、頁岩製両面調整石器1点(1004)、チャー

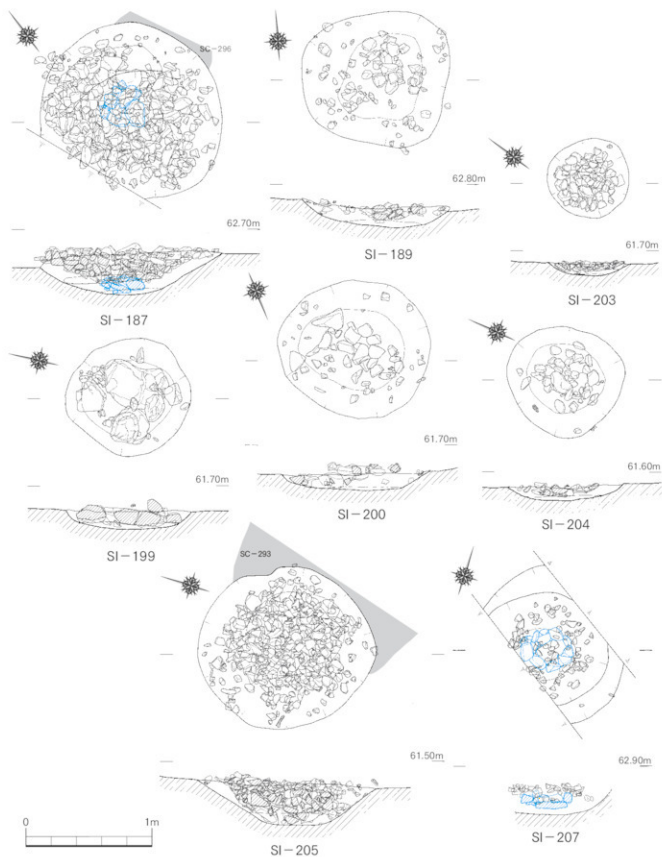


第137図 縄文早期集石遺構実測図⑦ (S=1/30)



第138図 縄文早期集石遺構実測図⑧ (S=1/30)

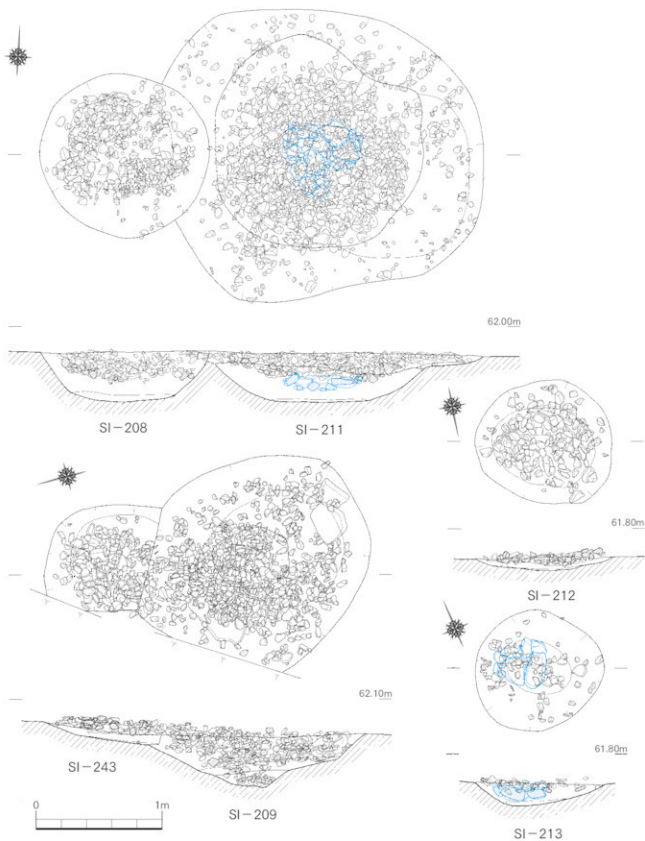




第139図 縄文早期集石遺構実測図⑨ (S=1/30)

ト製石鏃 1 点等が出土している。SI-167 の炭化物は補正年代で  $8190 \pm 50\text{BP}$  であった。SI-169 はチャート製石鏃 1 点等が出土している。

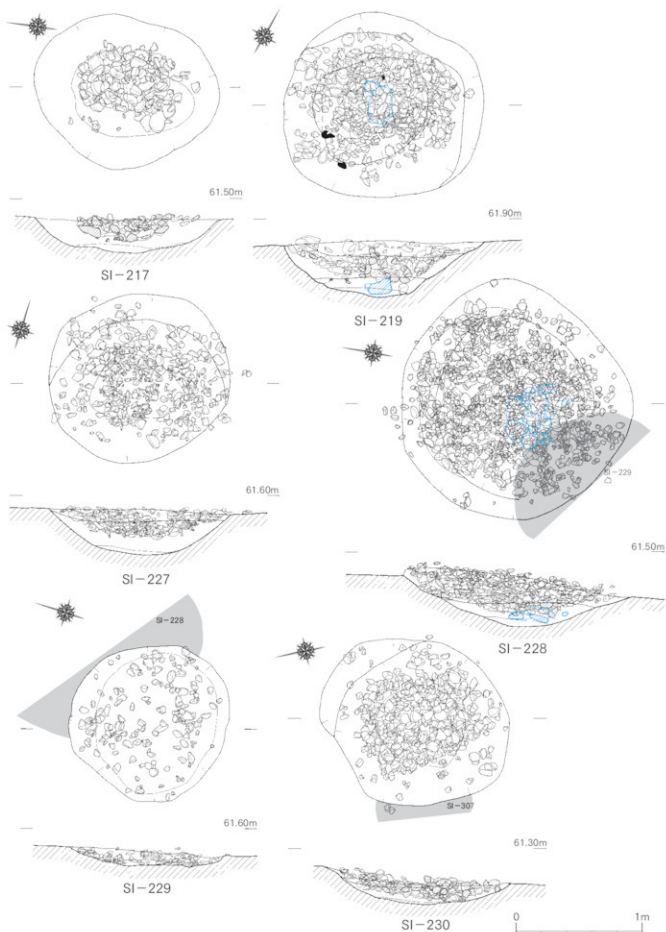
SI-176 は別府原式土器 1 点(1010)、砂岩製スクレイパー 1 点、砂岩製蔽石 1 点(1011)等が出土している。SI



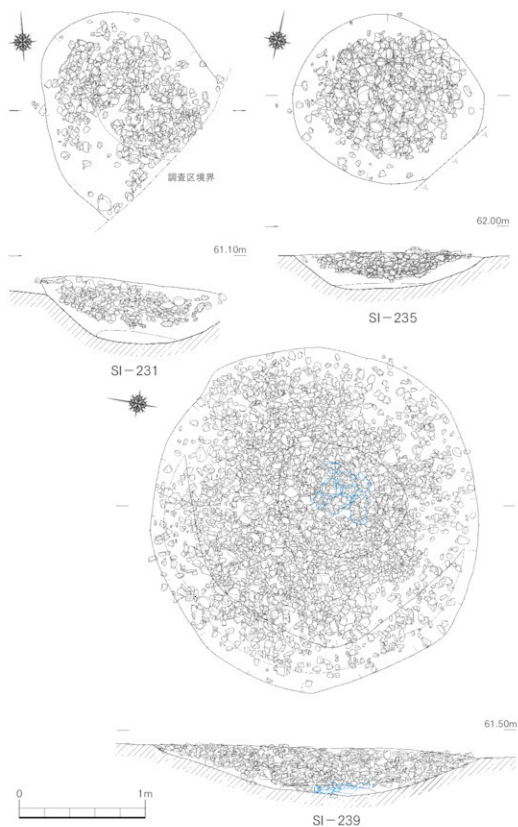
第140図 縄文早期集石遺構実測図② (S=1/30)

-178 は不明土器片 1 点(隆帯文土器の無文部位か)等が出土している。

SI-182 は不明土器片 4 点等が出土している。SI-183 は土器片 2 点(別府原式 1 : 1013、不明 1)等が出土している。SI-184 は摺糸文土器片 1 点(1014)等が出土している。SI-185 は桑ノ丸式土器片 1 点(1015)が出土している。SI-186 は不明土器片 2 点(別府原式を含むか)、桑ノ木津留産黒曜石製石鏃 1 点等が出土している。SI



第141図 縄文早期集石遺構実測図② (S=1/30)



第142図 縄文早期集石遺構実測図② (S=1/30)

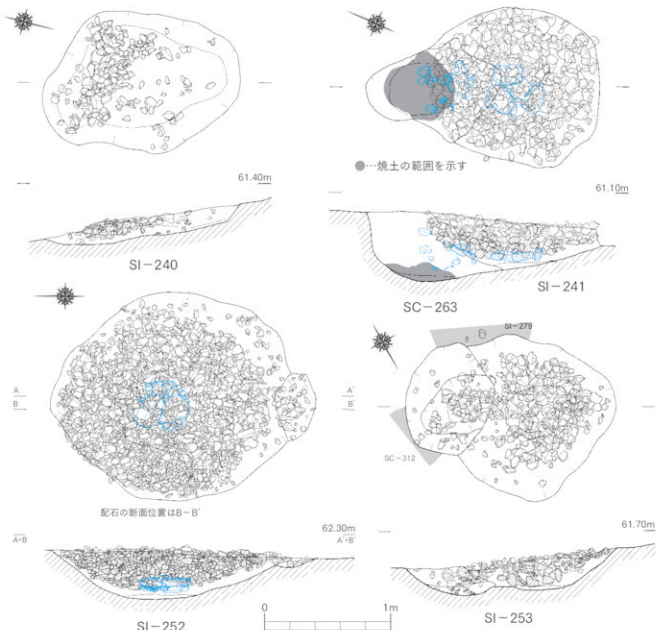
213は土器片4点(無文土器2、不明2:隆帯文の無文部位か1026)が出土している。SI-217は土器片3点(押型文1、爪形文1類1、不明1:隆帯文の無文部位か)が出土している。SI-219は土器片9点(押型文6:1027~1030、不明1隆帯文の無文部位か)等が出土している。1027の反転復元による口縁部径は26.2cmを測る。

SI-227は土器片10点(隆帯文2類1、不明8:無文土器と隆帯文の無文部位を含むか)が出土している。SI

-187は押型文土器片1点(1016)が出土している。SI-189は塞ノ神式土器片1点(1016)が出土しており、炭化物は補正年代で $8600 \pm 50$ BPであった。

SI-200は土器片2点(別府原式1:1017、不明1:隆帯文の無文部位か)が出土している。SI-204は別府原式土器片1点(1018)等が出土している。SI-205は土器片5点(桑ノ丸式1:1019、押型文1:1020、不明3:隆帯文の無文部位か)が出土している。SI-208は押型文土器片1点(1021)が出土している。1021の反転復元による口縁部径は23.2cmを測る。SI-209はSI-243を切っており、土器片4点(条痕文土器2類1:1023、無文土器1:1022、隆帯文:4類1、不明1:隆帯文の無文部位か)等が出土している。炭化物は補正年代で $8500 \pm 50$ BPであった。SI-243は西北九州産黒曜石製石鏃1点(1044)等が出土している。

SI-211は押型文土器片1点(1024)、尾鈴山酸性岩製敲石1点(1025)が出土している。SI-212は無文土器片1点(1026)等が出土している。SI-



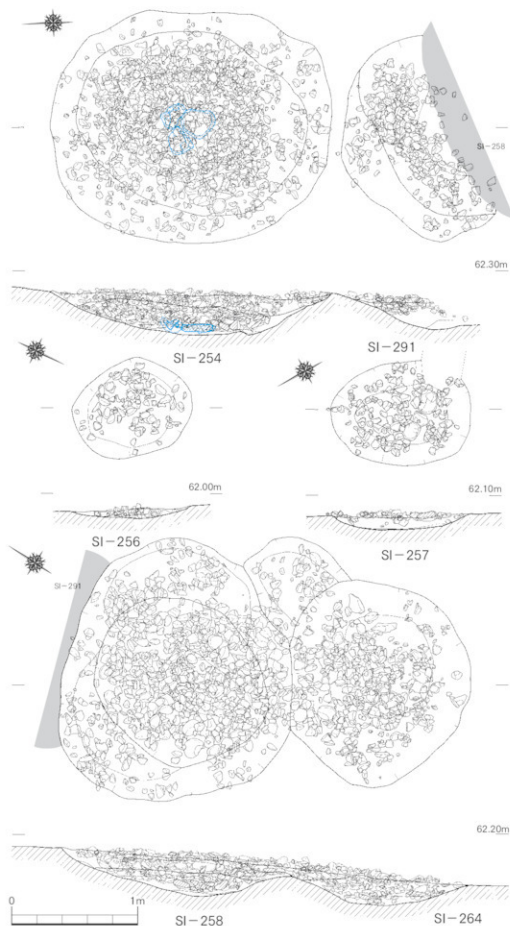
第143図 縄文早期集石遺構実測図② (S=1/30)

-228 は土器片 9 点(下剥傘式 1 : 1031、燃糸文 1 : 1032、不明 7 : 隆帯文の無文部位を含むか)、チャート製石鏃 1 点(1033 : 先端部磨滅)、頁岩製尖頭状石器(1034)等が出土している。SI-229 は SI-228 に切られており、土器片 6 点(桑ノ丸式 1 : 1035、塞ノ神式 1 : 1036、無文土器 1 : 1037、不明 3 : 隆帯文の無文部位を含むか)等が出土している。

SI-239 は土器片 5 点(下剥傘式 2 : 1038・1039、塞ノ神式 1 : 1040、爪形文 1 類 1、不明 1 : 隆帯文の無文部位か)、桑ノ木津留産黒曜石製石鏃 1 点(1041)、頁岩製スクレイパー 1 点(1042)等が出土しており、炭化物は補正年代で 8610±40BP であった。

SI-252 は土器片 9 点(押型文 1 : 1048、隆帯文 4 類 1、不明 6 : 隆帯文の無文部位を含むか)、砂岩製スクレイパー 1 点(1049)等が出土している。SI-257 は土器片 6 点(桑ノ丸式 1、爪形文 1 類 1、不明 4 : 隆帯文の無文部位を含むか)等が出土している。SI-259 は土器片 4 点(不明 4 : 刺突文と隆帯文の無文部位を含むか)等が出土している。

SI-261 は土器片 35 点(別原原式 1、桑ノ丸式 1 : 1061、押型文 10 : 1062 ~ 1065、燃糸文 1 : 1060、隆帯文 2 類 1、不明 11 : 隆帯文の無文部位を含むか)等が出土しており、炭化物は補正年代で 8260±50BP であった。SI-262 は不明土器片 2 点(条痕文 2 類と隆帯文の無文部位か)が出土している。SI-265 は土器片 14 点(隆



第144図 縄文早期集石遺構実測図② (S=1/30)

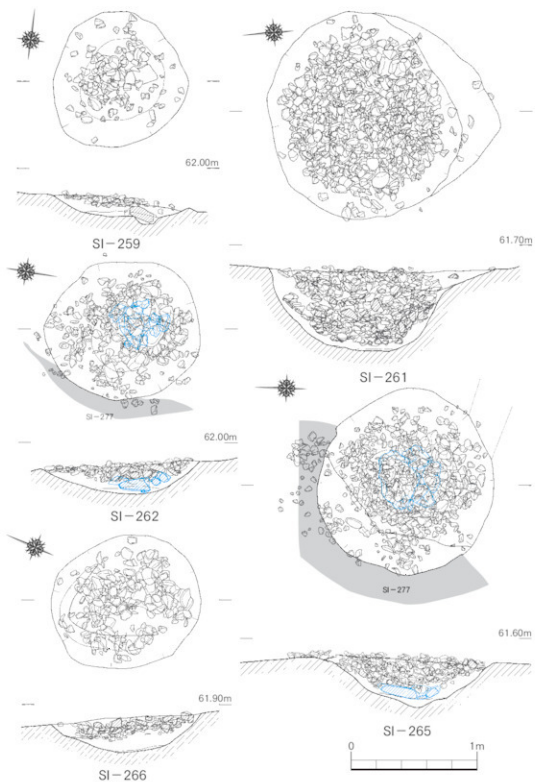
帯文2類1、不明12：  
 隆帯文の無文部位を含むか）が出土している。SI-266は不明土器片3点（隆帯文の無文部位を含むか）等が出土している。SI-270は土器片2点（押型文1、不明1）等が出土している。SI-272は土器片8点（桑ノ丸式1、押型文1、不明6：隆帯文の無文部位を含むか）が出土している。SI-274は土器片14点（塞ノ神式1、押型文2、不明12：無文土器と隆帯文の無文部位を含むか）等が出土している。

## 2. 炉穴

### (第157図～165図)

炉穴は基本土層VI層下部からVIII層上部にかけて検出されている。平面プランは主に楕円形又は長楕円形を呈し、床面の一部に焼土が検出されるものである。遺構埋土に焼土や炭化物を多く含むことも特徴である。本調査区では本来存在したであろうブリッジが残存しているものは検出されなかった。以下に個別の所見について報告する。

SC-28は検出面での規模が2.17m×1.12mの不整楕円形プランを呈し、燃烧部は西側で深さは48cmを測る。遺構埋土からは土器片8点（下剥峯式1:1085、押型文5:1086～1088、不明2）、チャート製剥片2点が出土している。また炭化物は補正年代で8410±30BPであった。



第145図 縄文早期集石遺構実測図⑤ (S=1/30)

クレイパー 1点(1098)、剥片 16点(頁岩 2、チャート 5、黒曜石 5：桑ノ木津留産 3・西北九州産 2、ホルンフェルス 2、砂岩 2)が出土している。また炭化物は補正年代で 8240±40BP であった。

SC-40 は検出面での規模が 2.55 m × 1.09 m の不整長楕円形プランを呈し、燃焼部は東側で深さは 63cm を測る。遺構埋土からは土器片 9 点(別府原式 1、下剥峯式 1: 1099、押型文 4: 1100・1101、不明 3)、チャート製剥片 1 点が出土している。また炭化物は補正年代で 8350 ± 50BP であった。

SC-44 は検出面での規模が 2.17m × 1.17m の不整楕円形プランを呈する。床面に明瞭な焼土は検出されなかったが、遺構埋土中には焼土と炭化物が多く混入していることから炉穴と断定した。床面北側の一段低いところ

SC-31 は草創期の集石遺構 SI-55 を切っていた。検出面での規模は 2.63m × 1.56m の不整形な柄鏡状を呈し、燃焼部は西側で深さは 76cm を測る。遺構埋土からは土器片 3 点(下剥峯式 1: 1089、押型文 1: 1090、不明 1)、剥片 3 点(チャート 2、桑ノ木津留産黒曜石 1)が出土している。また炭化物は補正年代で 8250 ± 50BP であった。

SC-32 は北側が調査区外に伸びており不明瞭だが、現状の検出面での規模は 2.68m × 1.6m 以上の西側が二股に分かれる平面プランを呈する。燃焼部は西側に 2 箇所あって深さは北側が 48cm、南側は 61cm を測る。床面東側の足場には径 22 cm の柱穴状の掘り込みが確認された。遺構埋土からは土器片 17 点(桑ノ丸式 1: 1091、押型文 7: 1092 ~ 1094、不明 8)、チャート製石鏝 2 点(1095・1096)、ホルンフェルス製尖頭状石器 1 点(1097)、頁岩製ス



第146図 縄文早期集石遺構実測図⑤ (S=1/30)

が燃焼部と考えられ、その深さは58cmを測る。埋土からは土器片5点(押型文1、不明4)、剥片2点(チャート1、ホルンフェルス1)が出土している。

SC-49は中心に攪乱を受け不明瞭だが、現状の検出面での規模は1.56m×0.45mの不整長楕円形プランを呈する。床面に明瞭な焼土は検出されなかったが、遺構埋土中には焼土と炭化物が多く混入していることから炉穴

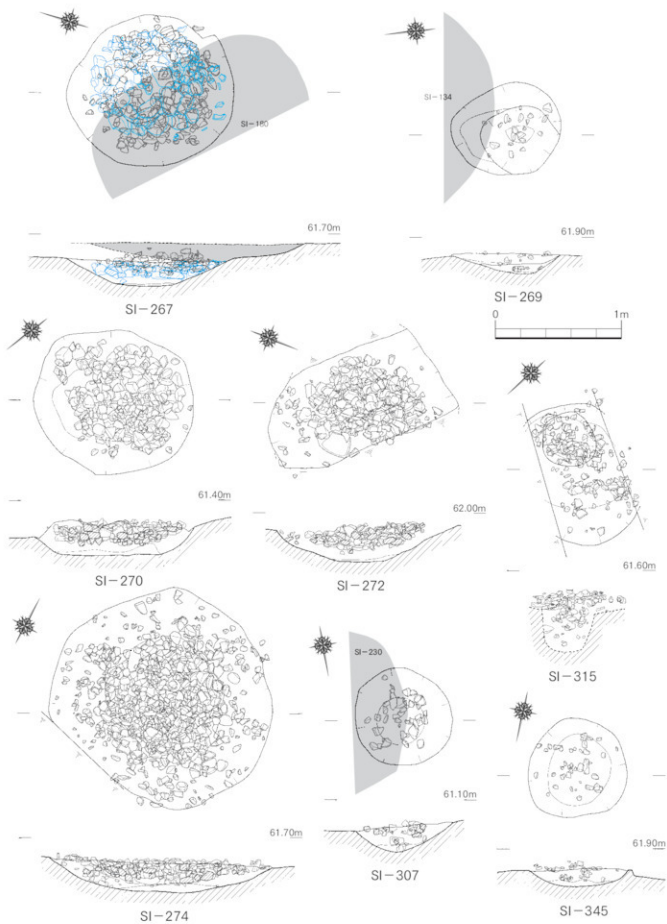




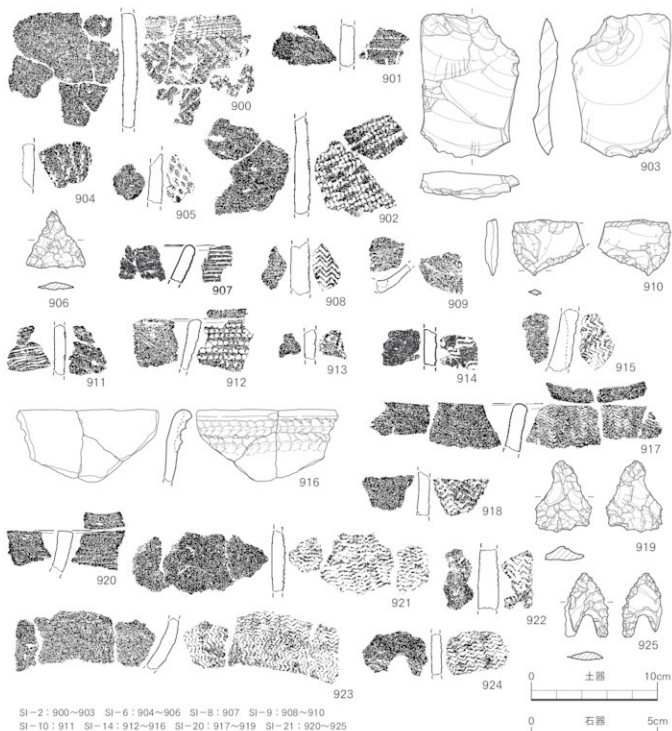
第147図 縄文早期集石遺構実測図㉔ (S=1/30)

と断定した。床面北側の一段低いところが燃焼部と考えられ、その深さは35cmを測る。埋土からは別府原式土器片1点、桑ノ木津留産黒曜石製剥片1点が出土している。また炭化物は補正年代で $8820 \pm 50\text{BP}$ であった。

SC-57は検出面での規模が $3.46\text{m} \times 3.35\text{m}$ の不整十字形プランを呈する。床面の北側と東側の一段低い部分には焼土が検出されたので少なくともこの2箇所が燃焼部と考えられ、その深さは北側が52cm、西側は40cm



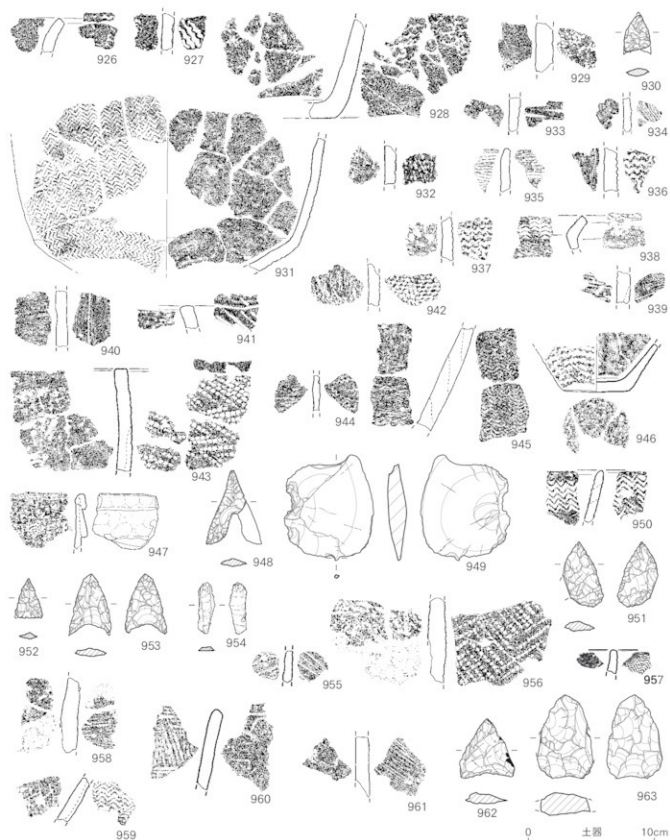
第148図 縄文早期集石遺構実測図⑧ (S=1/30)



第149図 縄文早期集石遺構出土遺物実測図① (S=1/3・2/3)

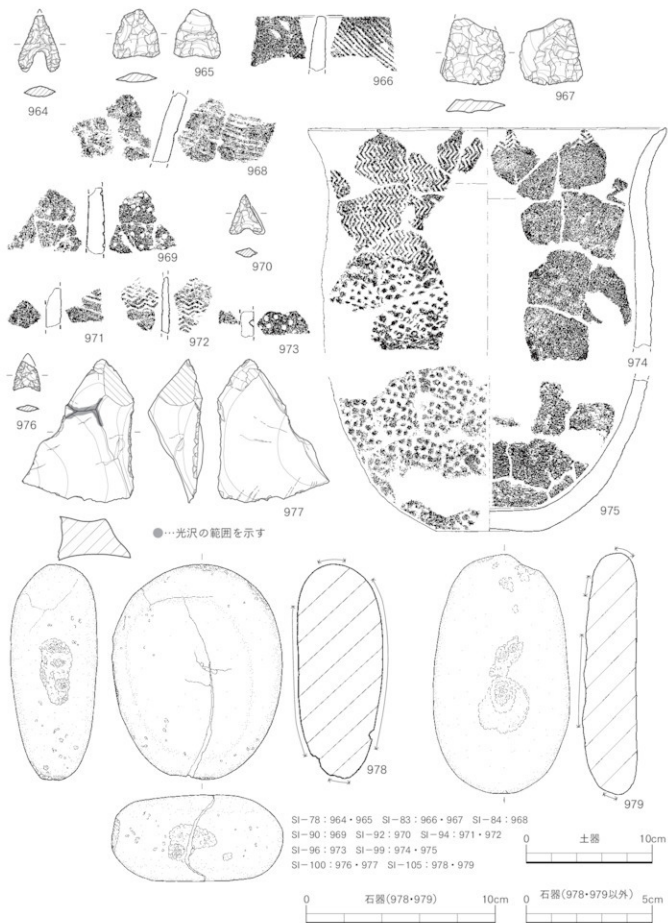
を測る。不整形な平面プランと床面に数箇所の柱穴状の掘り込みが見られることから、おそらく数基の炉穴とハイヒール状土坑との切り合い関係にあったものと想定されるが、調査中にその新旧関係を把握することができなかった。遺構埋土からは土器片 22 点(押型文 6:1103 ~ 1106、不明 16:隆帯文の無文部位を含む)、剥片 11 点(チャート 9、桑ノ木津留産黒曜石 2)が出土している。また炭化物は補正年代で  $8340 \pm 40BP$  であった。

SC-62 は検出面での規模が  $2.13m \times 1.24m$  の不整形円形プランを呈し、燃焼部は西側で深さは  $54cm$  を測る。燃焼部のさらに西側にはテラス状の平坦面があり、径  $36cm$ 、深さ  $15cm$  の柱穴状の掘り込みが見られる。これについてはハイヒール状土坑等との切り合い関係とも考えられるが、それを調査中に把握することはできなかった。遺構埋土からは押型文土器片 3 点(1107 ~ 1109)、剥片 5 点(頁岩 1、チャート 1、黒曜石 2:桑ノ木津留産 1・西北九州産 1、ホルンフェルス 1)が出土している。また炭化物は補正年代で  $8320 \pm 30BP$  であった。

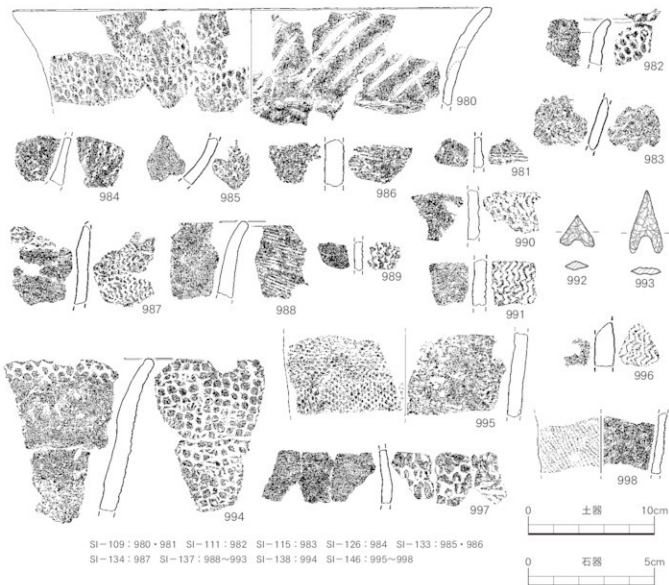


SI-22: 926・927 SI-23: 928 SI-25: 929 SI-26: 930 SI-26・28: 931  
 SI-27: 932 SI-33: 933~935 SI-34: 936 SI-35: 937 SI-38: 938・939  
 SI-41: 940 SI-43: 941 SI-53: 942 SI-60: 943~949  
 SI-70: 950~954  
 SI-71: 955 SI-74: 956・957 SI-75: 958 SI-76: 959 SI-77: 960~963

第150図 縄文早期集石遺構出土遺物実測図② (S=1/3・2/3)



第151図 縄文早期集石遺構出土遺物実測図③ (S=1/3・2/3・1/2)



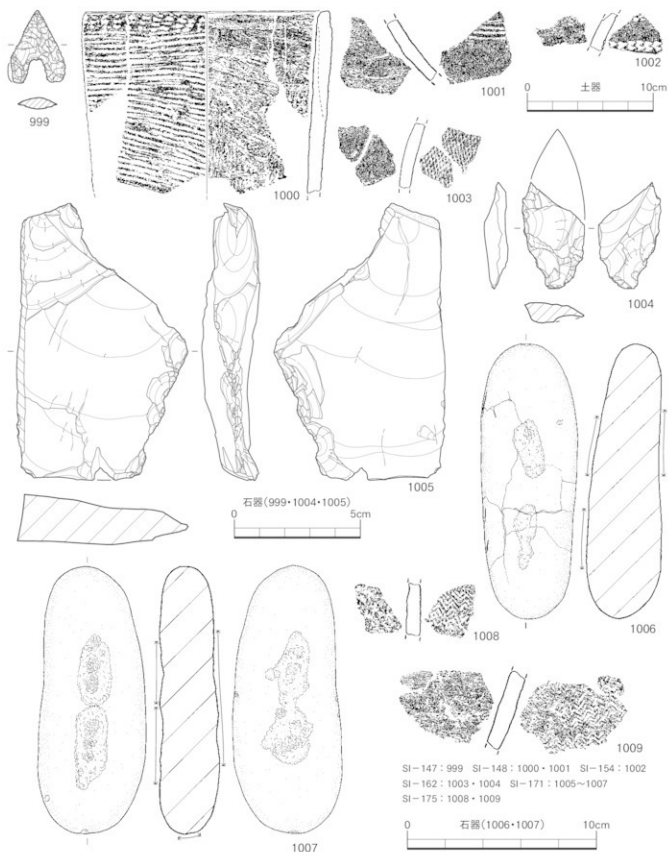
第152図 縄文早期集石遺構出土遺物実測図④ (S=1/3・2/3)

SC-72は検出面での規模が2.29m×1.65mの不整形な柄鏡状を呈し、燃焼部は西側で深さは75cmを測る。遺構埋土からは土器片5点(桑ノ丸式1:1110、押型文1、縄文施文1、隆帯文の無文部位か2)、剥片13点(頁岩2、チャート9、砂岩2)が出土している。また炭化物は補正年代で8470±40BPであった。

SC-97西側をSI-96に切られており、不明瞭だが現状の検出面での規模は3.2m×2.56mの北西部が二股にわかれる平面プランを呈する。燃焼部は北側と西側に1箇所ずつ見られ、深さは北側が84cm、西側が92cmを測る。遺構埋土からは土器片30点(前平式1:1111、別府原式6、桑ノ丸式1、押型文14:1112~1117、塞ノ神式1:1118、不明7)、チャート製石鏃1点、剥片(頁岩1、チャート10、黒曜石5:桑ノ木津留産1・西北九州産4、安山岩2、砂岩3、尾鈴山酸性岩1)砂岩石核1点(1119)が出土している。また炭化物は補正年代で8250±40BPであった。1113の反転復元による口縁径は37.2cmを測る。1116の反転復元による底部径は6cmを測る。

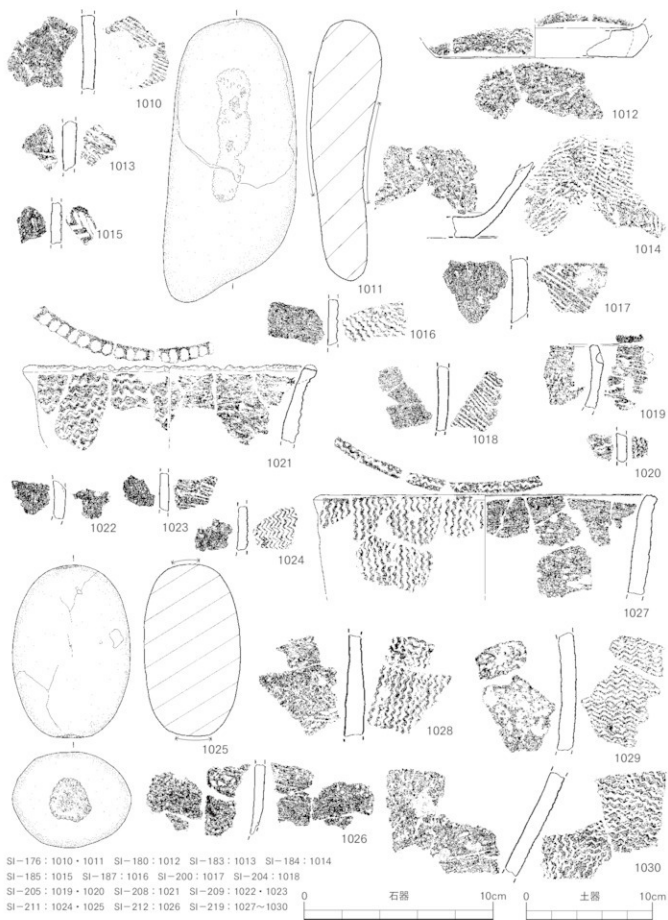
SC-119は草創期のハイヒール状土坑であるSC-123を切っていた。検出面での規模は2.08m×0.8mの不整形楕円形プランを呈する。床面に明瞭な焼土は検出されなかったが、埋土中には焼土と炭化物が多く混入しており、本遺構もが穴であると判断した。床面東側の最も低いところが燃焼部と考えられ、その深さは40cmを測る。埋土からは不明5点(隆帯文土器の無文部位か)、桑ノ木津留産黒曜石製石鏃1点(1120)、剥片2点(頁岩1、桑ノ木津留産黒曜石1)、砂岩製敲石2点(1120)が出土している。

SC-127は南側にある土坑と切り合い関係にあったが新旧関係を把握することはできなかった。検出面での規模は1.76m×0.83mの不整形楕円形プランを呈し、燃焼部は北西側で54cmを測る。遺構埋土からは別府原式土



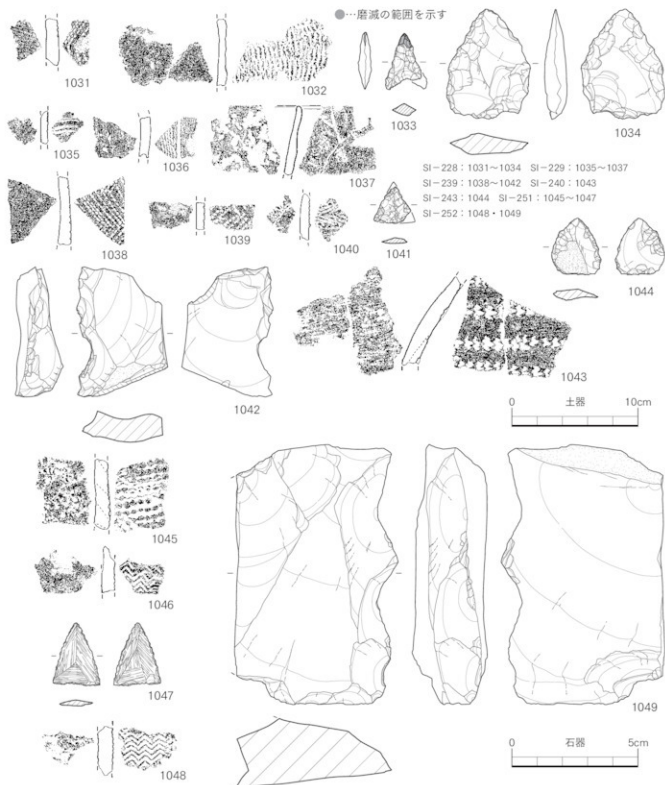
第153図 縄文早期集石遺構出土遺物実測図⑤ (S=1/3・2/3・1/2)

器片 2 点(1121)、砂岩製石鏃未製品 1 点(1122)、頁岩製スクレイパー (1123)、剥片 2 点(西北九州産 1、砂岩 1)、頁岩製石核 1 点、砂岩製蔽石 1 点が出土している。また炭化物は補正年代で 8890±40BP であった。南側の土坑は現状の検出面での規模は 1.3m×1m で不整隅丸方形プランを呈し、検出面からの深さは 26cm を測る。



第154図 縄文早期集石遺構出土遺物実測図⑥ (S=1/3・1/2)

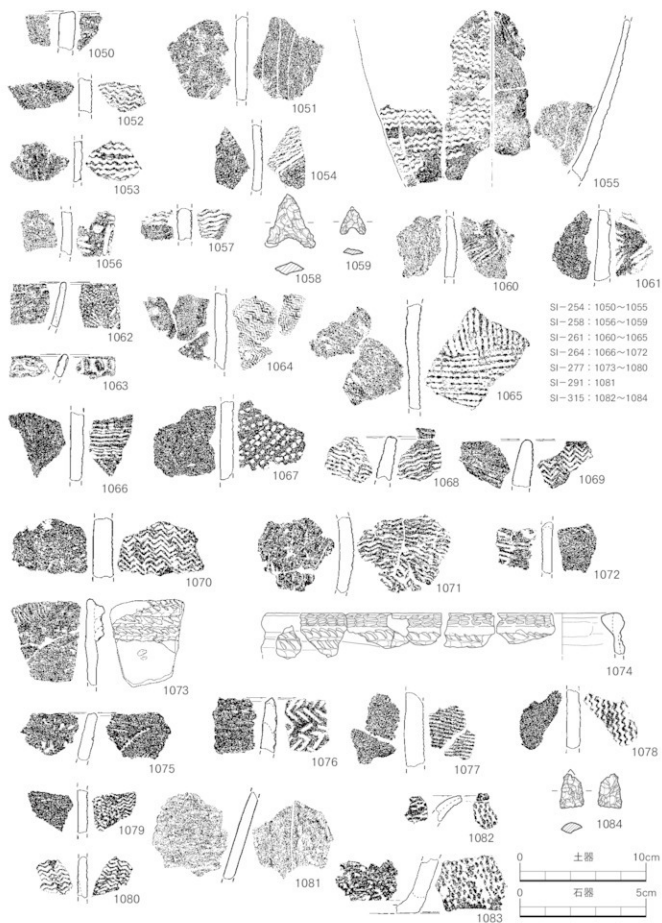




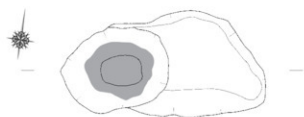
第155図 縄文早期集石遺構出土遺物実測図⑦ (S=1/3・2/3)

SC-143は検出面での規模は2.17m×1.16mの不整形なL字形プランを呈し、燃焼部は西側で、その深さは59cmを測る。遺構埋土からは土器片4点(別府原式3:1124、不明1:隆帯文の無文部位か)が出土している。

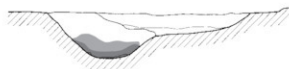
SC-153は検出時には一つの遺構と思われたが、遺構埋土の掘削中にハイヒール状土坑と竈穴を切り合っていることがわかった。検出面での規模は1.54m×1.14mの不整形円形プランを呈し、燃焼部は西側で深さは31cmを測る。また東側には径55cmの掘り込みが見られた。埋土からは土器片6点(押型文2:1125・1126、



第156図 縄文早期集石遺構出土遺物実測図⑧ (S=1/3・2/3)



62.10m



62.10m



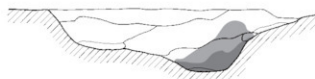
SC-28

- 1：黒褐色ローム層 (Hue10YR2/3) 礫を含む。炭化物粒と焼土を少量含む。  
 2：黒褐色シルト質ローム層 (Hue7.5YR3/2) 礫を少量、炭化物を多く含む。焼土塊を含む。  
 3：暗赤褐色ローム層 (Hue5YR3/6) 礫を少量、炭化物と 炭土塊を多く含む。  
 4：赤褐色ローム層 (Hue5YR4/6) 礫を少量、焼土塊と炭化物を多く含む。  
 ※1・3はやや硬質。2・4は硬質。

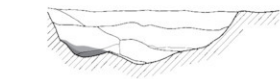


調査区境界

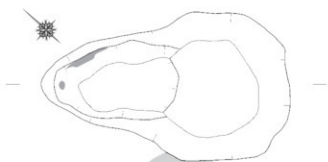
62.20m



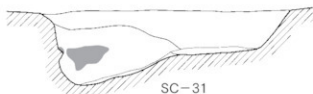
62.20m



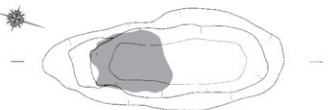
SC-32



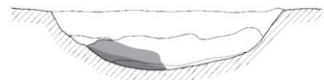
62.40m



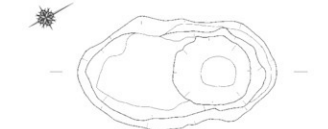
SC-31



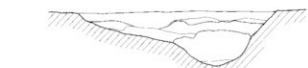
62.00m



SC-40



62.20m

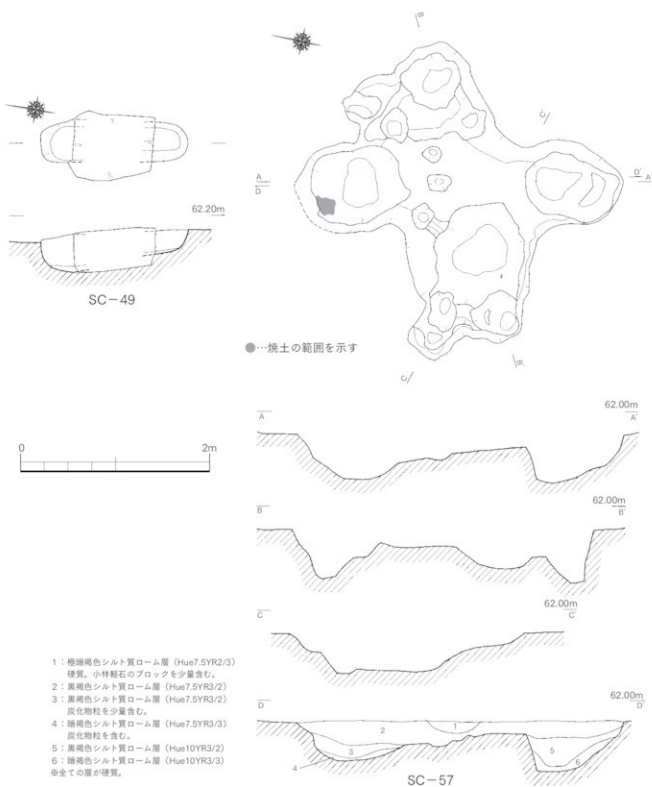


SC-44

●…焼土の範囲を示す



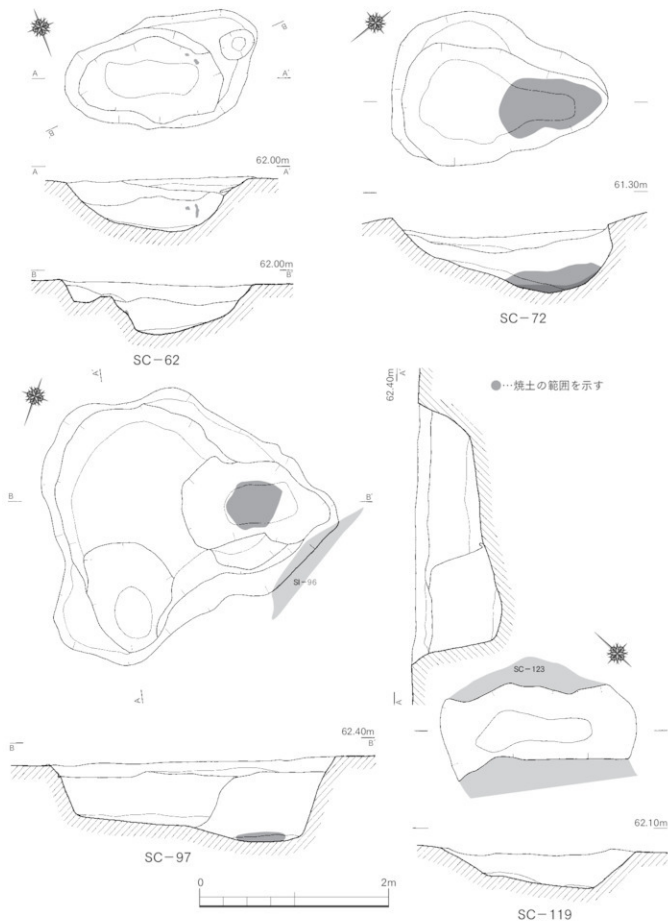
第157図 縄文早期炉穴実測図① (S=1/40)



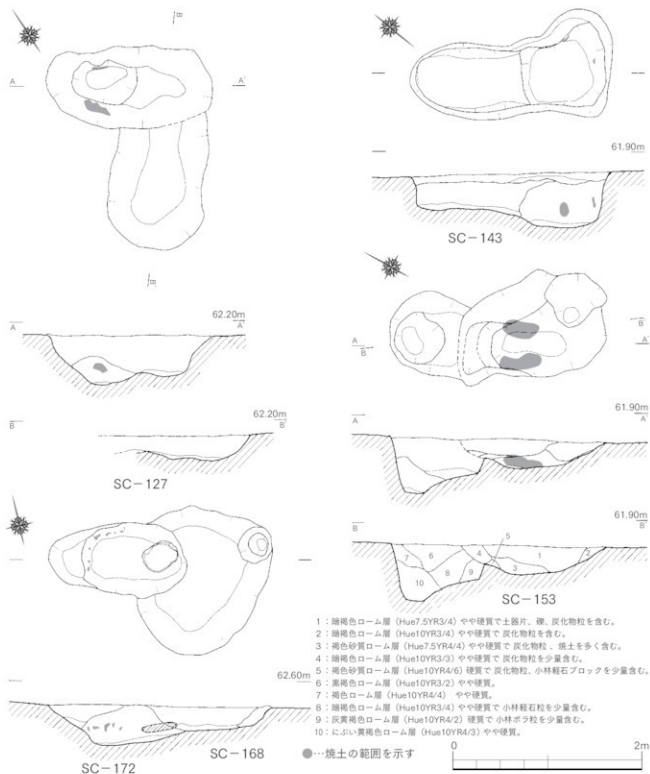
第158図 縄文早期炉穴実測図② (S=1/40)

隆帯文: 2類1、不明: 隆帯文の無文部位3)、石鏃2点(チャート1: 1127、西北九州産1)、緑色堆積岩製石斧片1点(1128)、剥片10点(頁岩2、チャート5、桑ノ木津留産黒曜石1、砂岩1、ホルンフェルス1)、チャート製石核1点、砂岩製敲石1点が出土している。また炭化物は補正年代で8390±40BPであった。西側のハイヒール状土坑は現状で1.12m×0.7mの不整楕円形プランを呈し、床面の深さは12cmを測る。床面の北西側に1箇所掘り込みが見られる。

SC-172は東側のSC-168を切っていた。検出面での規模は1.46m×0.76mの不整楕円形プランを呈し、燃



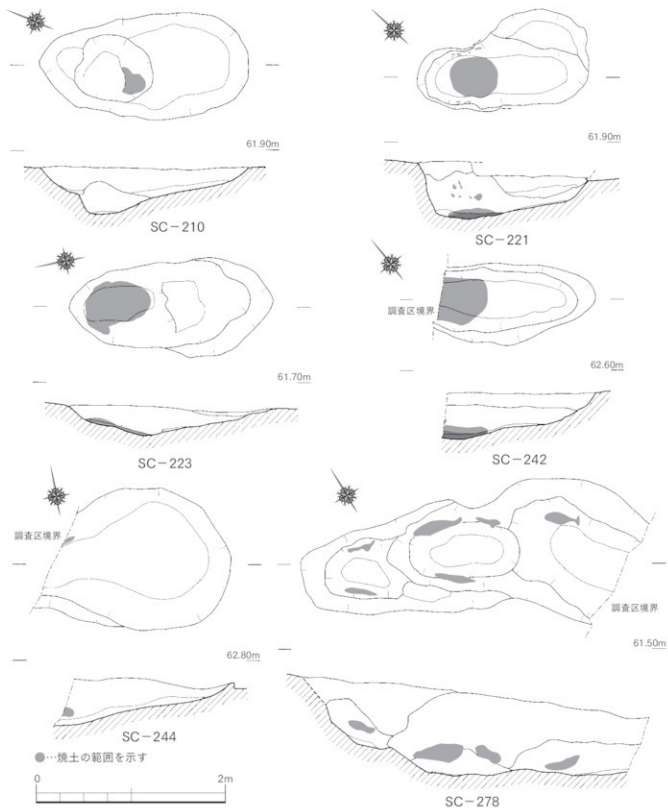
第159図 縄文早期炉穴実測図③ (S=1/40)



第160図 縄文早期炉穴実測図④ (S=1/40)

焼部は西側で深さは42cmを測る。床面東側の足場には砂岩製の石皿が出土している。その他に遺構埋土からは土器片2点(内面にミガキ1、不明1:陰帯文の無文部位か)、剥片3点(真骨1、桑ノ木津留産黒曜石1、砂岩1)が出土している。また炭化物は補正年代で $8370 \pm 30BP$ であった。

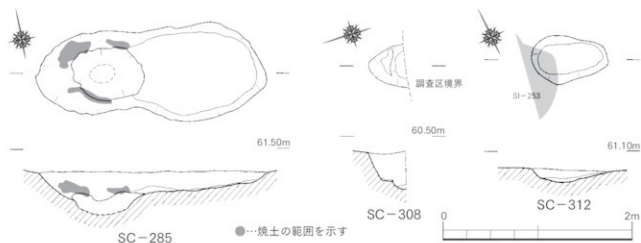
SC-210は検出面での規模は $2.20m \times 1.12m$ の不整楕円形プランを呈し、燃焼部は北西側で深さは49cmを測り、その北西側にテラスがある。遺構埋土からは土器片6点(前平式1:1131、押型文2:1129・1130、陰帯文2類1、不明2)、砂岩製剥片1点が出土している。また炭化物は補正年代で $8390 \pm 30BP$ であった。



第161図 縄文早期炉穴実測図⑤ (S=1/40)

SC-221は検出面での規模は1.82m×1mの不整形な柄鏡形を呈し、燃焼部は南西側で深さは55cmを測る。東側にテラスがある。遺構埋土からは土器片3点(押型文2:1132・1133、不明1)、砂岩製剥片1点が出土している。また炭化物は補正年代で8290±50BPであった。

SC-223は検出面での規模は2.16m×1.04mの不整形円形プランを呈し、燃焼部は北側で深さは30cmを測る。遺構埋土からは桑ノ木津留産黒曜石製石鏃1点(1134)、剥片5点(頁岩2、チャート2、桑ノ木津留産黒曜石1)



第162図 縄文早期炉穴実測図⑥ (S=1/40)

が出土している。また炭化物は補正年代で  $8330 \pm 40$ BP であった。

SC-242 西側が調査区外に伸びており不明瞭だが、現状の検出面での規模は  $1.65\text{m}$  以上  $\times$   $0.86\text{m}$  の不整長楕円形プランを呈し、燃焼部は西側で深さは  $50\text{cm}$  を測る。遺構埋土からは土器片 7 点(別府原式 1、無文土器 5、不明 1)、チャート製石礫 1 点(1135)が出土している。また炭化物は補正年代で  $8930 \pm 30$ BP であった。

SC-244 は西側が調査区外に伸びており不明瞭だが、現状の検出面での規模は  $1.85\text{m}$  以上  $\times$   $1.49\text{m}$  の不整形な柄杓形プランを呈し、燃焼部は西側で深さは  $48\text{cm}$  以上を測る。遺構埋土からは土器片 28 点(下剥峯式 2: 1136、辻タイプ 2: 1137・1138、押型文 4: 1139・1140、縄文施文 2、外面ミガキ 11、内外面ミガキ 2、不明 5)、チャート製石礫 1 点(1141)、剥片 70 点(頁岩 2、チャート 40、西北九州産黒曜石 25、安山岩 2、砂岩 1)、砂岩製礫石 1 点(1142)が出土している。また炭化物は補正年代で  $8410 \pm 30$ BP であった。

SC-278 は東側が調査区外に伸びており不明瞭だが、現状の検出面での規模は  $3.42\text{m}$  以上  $\times$   $1.52\text{m}$  の不整形なプランを呈する。本遺構は調査区東側の斜面を登るように燃焼部を西方向に 3 か所以上拡張するように設定しており、最深のもので  $87\text{cm}$  を測る。遺構埋土からは土器片 34 点(別府原式 1、桑ノ丸式 2: 1143・1144、押型文 3: 1145、陰帯文: 2 類 1・無文部位 23、不明 4)、桑ノ木津産留産黒曜石製石礫 4 (1147 ~ 1149)、剥片 31 点(頁岩 7、チャート 20、鹿児島産黒曜石 1、安山岩 1、砂岩 2)、頁岩製石核 1 点、砂岩製礫石 1 点(1150)、砂岩製磨石 1 点(1150)が出土している。また炭化物は補正年代で  $8350 \pm 40$ BP であった。

SC-285 は検出面での規模は  $2.44\text{m} \times 1.02\text{m}$  の不整長楕円形プランを呈し、燃焼部は西側で深さは  $44\text{cm}$  を測る。遺構埋土からは土器片 4 点(押型文 2: 1153、縄文施文 1: 1152、内外面条痕文 1: 1151)、頁岩製剥片 1 点(1151)が出土している。また炭化物は補正年代で  $8410 \pm 40$ BP であった。

SC-308 は南側大半が調査区外に伸びており、全貌がほとんどわからない。炉穴の燃焼部の一部と考えられ、現状の検出面での規模は  $0.39\text{m}$  以上  $\times$   $0.46\text{m}$  以上であり、深さは  $40\text{cm}$  以上を測る。遺構埋土からは不明土器片 1 点、チャート製剥片 5 点が出土している。

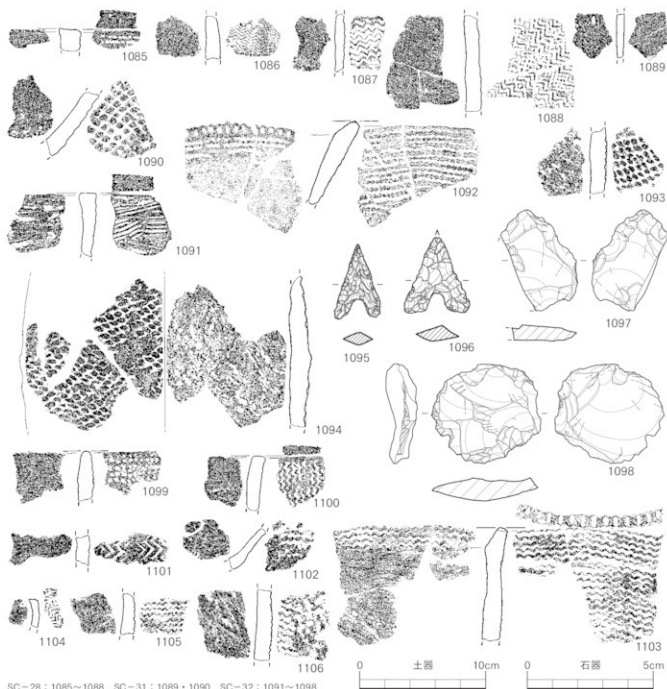
SC-312 は SI-253 に切られていた。SC-278 とは直接連なっておらず、床面に明瞭な焼土が見られなかったものの、その西側に隣接して遺構埋土中には焼土と炭化物が多く混入していたため、SC-278 の燃焼部の一部であった可能性が考えられる。現状の検出面での規模は  $0.82\text{m} \times 0.52\text{m}$  の不整楕円形プランを呈し、深さは  $13\text{cm}$  を測る。埋土からは不明土器片 1 点が出土している。

### 3. 陥し穴状遺構 (第 166 図・167 図)

陥し穴状遺構は炉穴と同じように基本土層 VI 層下部から VIII 層上部にかけて 4 基検出されている。比較的大規模で平面プランは楕円形を呈し、床面に逆茂木痕と考えられる小穴が確認されるものである。これらの平面分布上の規則性などは見られなかった。以下に個別の所見について報告する。

SC-16 は検出面での規模が  $2.58\text{m} \times 0.98\text{m}$  の不整長楕円形プランを呈し、深さは  $96\text{cm}$  を測る。床面には逆茂木痕と考えられる小穴が 4 基検出されている。遺構埋土からは陰帯文土器を含む土器片 6 点が出土しており、草創期の遺構の可能性も考えられるが、検出層位が VI 層下部であることからここで報告を行った。1154 は陰帯





SC-28: 1085~1088 SC-31: 1089・1090 SC-32: 1091~1098  
 SC-40: 1099~1101 SC-44: 1102 SC-57: 1103~1106

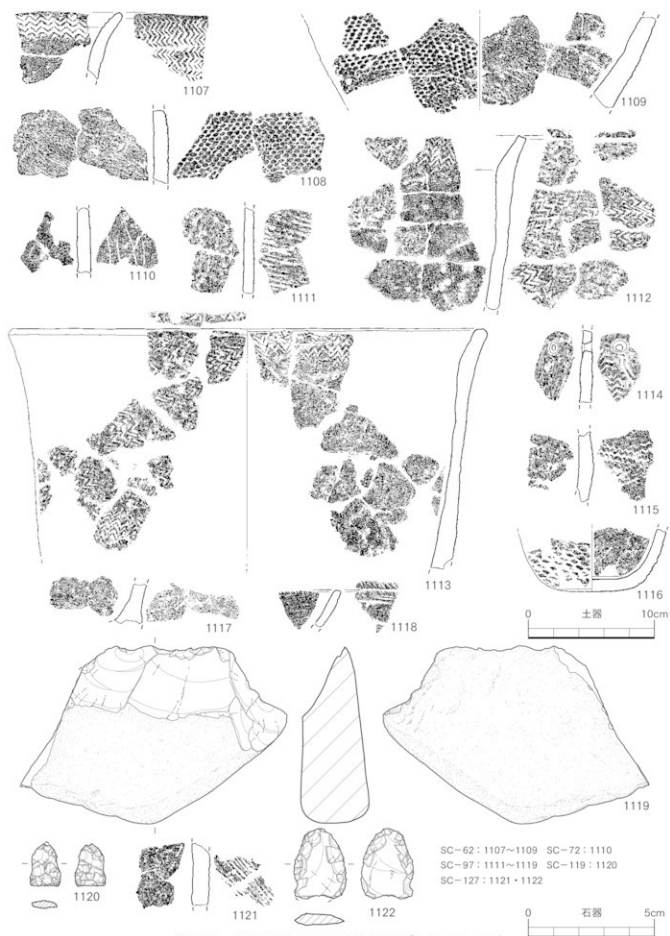
第163図 縄文早期が穴出土遺物実測図① (S=1/3・2/3)

文土器3類の口縁部片で、隆帯上には文様を施していないものである。

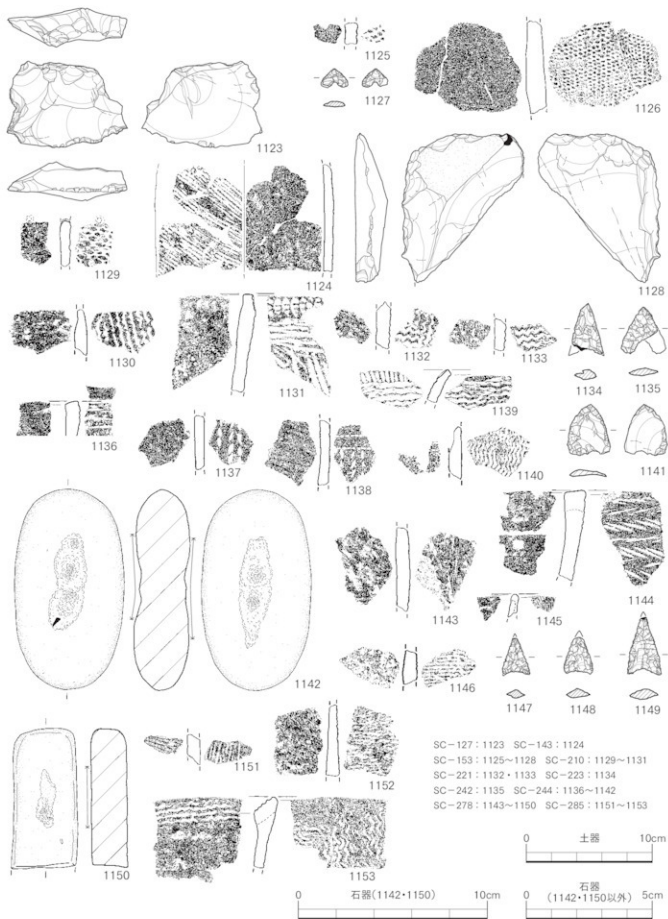
SC-159は北側をSI-117に切られており不明瞭だが、現状の検出面での規模は1.77m以上×1.15mの不整楕円形プランを呈し、深さは95cmを測る。床面には逆茂木痕と考えられる小穴が4基検出されている。遺構埋土からは土器片4点(塞ノ神式1、底部片1:1155、不明2)、砂岩製燧石1点、桑ノ木津留産黒曜石製剥片1点が出土している。1155は円筒形土器の底部片で、おそらく前平式であろう。

SC-201は検出面での規模が2.33m×1.11mの不整長楕円形プランを呈し、深さは87cmを測る。西側にテラス状に一段平坦な箇所があり、床面東側には逆茂木痕と考えられる小穴が1基検出されている。

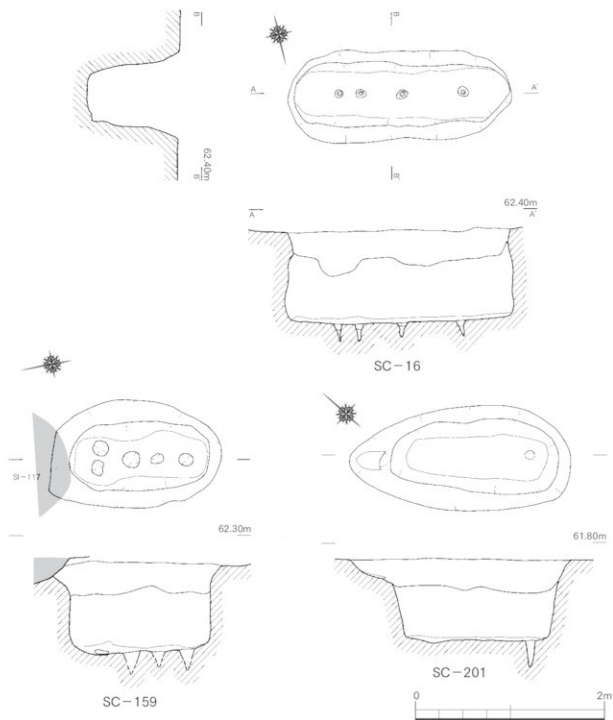
SC-216は検出面での規模が2.21m×1.45mの不整楕円形プランを呈し、深さは137cmを測る。床面には逆茂木痕と考えられる小穴が4基検出されている。遺構埋土から土器片6点(岩本式1:1156、前平式2:1157、不明3)、桑ノ木津留産黒曜石製石鏃1点(1158)、砂岩製燧石1点、剥片10点(頁岩4、黒曜石5:桑ノ木津留産4・



第164図 縄文早期炉穴出土土物実測図② (S=1/3・2/3)



第165図 縄文早期炉穴出土遺物実測図③ (S=1/3・2/3・1/2)



第166図 縄文早期陥し穴状遺構実測図① (S=1/40)

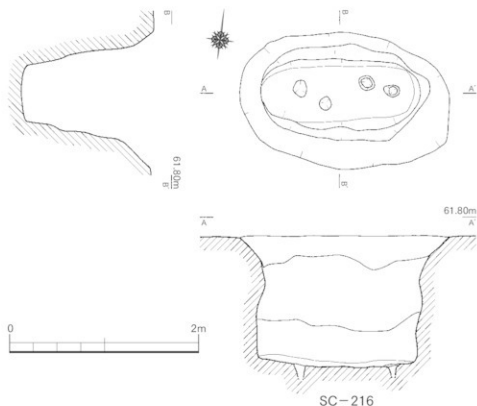
西北九州産1、砂岩1)が出土している。

#### 4. ハイヒール状土坑

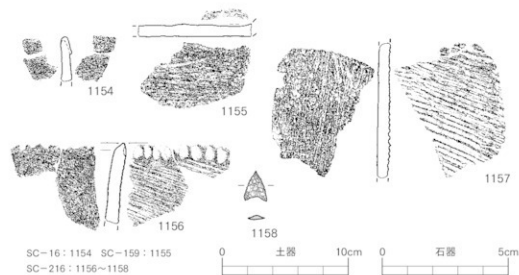
ハイヒール状土坑は前章でも報告した通り、床面に柱穴状の掘り込みを1基から数基持つものである。基本土層Ⅷ層中に検出されており、集石遺構や炉穴に切られているものもある。草創期に該当するものが多かったが、本項で報告するものは埋土から縄文早期の遺物が出土したものである。以下に個別の所見について報告する。

SC-139は検出面での規模が1.38m×1.12mの不整楕円形プランを呈し、床面の深さは14cmを測る。床面の南側端部に1箇所掘り込みが見られる。遺構埋土からは条痕土土器2類片1点(1159)、桑ノ木津留産黒曜石剥片1点が出土している。

SC-149は検出面での規模が1.12m×0.7mの不整楕円形プランを呈し、床面の深さは20cmを測る。床面の



SC-216



SC-16: 1154 SC-159: 1155  
SC-216: 1156~1158

第167図 縄文早期陥し穴状遺構実測図② (S=1/40) 及び出土遺物実測図 (S=1/3・2/3)

1)、砂岩製磨石が出土している。1162と1163の反転復元による口縁部径は1162が30.2cm、1163が16cmを測る。

SC-168はSC-172に北側を切られており不明瞭だが、現状の検出面での規模は1.64m×1.5mの不整楕円形プランを呈し、床面の深さは26cmを測る。床面の東側端部に1箇所掘り込みが見られる。遺構埋土からは土器片3点(下剥峯式1、桑ノ丸式2、押型文1)、剥片12点(頁岩3、チャート5、黒曜石2:桑ノ木津留産1・西北九州産1、安山岩1、砂岩1)が出土している。

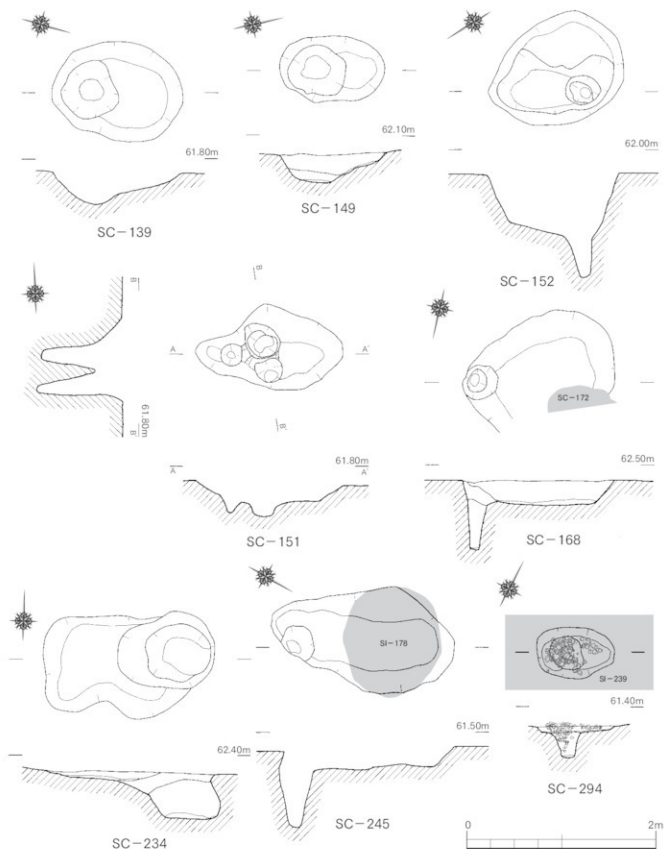
SC-234は検出面での規模が1.8m×1.1mの不整隅丸方形プランを呈し、床面の深さは9cmを測る。床面の東側に1箇所の掘り込みが見られる。遺構埋土からは土器片6点(押型文1:1169、無文土器1:1168、隆帯文の無文部位1:1170、不明:隆帯文の無文部位を含むか)、チャート製石燧1点(1171)、剥片7点(チャート5、砂岩2)が出土している。

SC-245はSI-178に中央から北側切られており不明瞭だが、検出面での規模は1.96m×1.14mの不整長楕円

南側端部に1箇所掘り込みが見られる。遺構埋土からは土器片2点(押型文1:1160、不明1)が出土している。

SC-151は検出面での規模が1.56m×0.9mの不整形不整楕円形のプランを呈し、床面の深さは20cmを測る。床面の中央から東側に3箇所掘り込みが見られる。遺構埋土からは押型文土器片1点(1161)、姫島産黒曜石製剥片1点が出土している。1161の反転復元による口縁部径は22.8cmを測る。

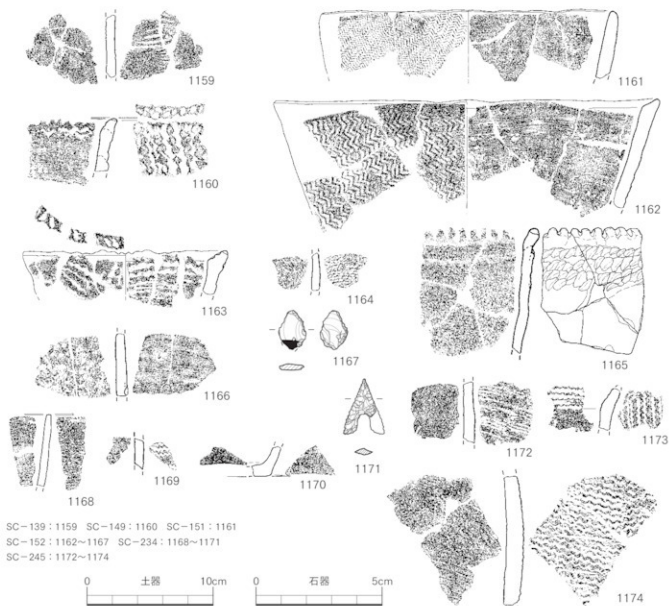
SC-152は検出面での規模が1.5m×1.12mの不整楕円形プランを呈し、床面の深さは60cmを測る。床面の東側に1箇所掘り込みが見られる。遺構埋土からは土器片56点(押型文2:1162・1163、燃糸文1:1164、爪形文1類2:1165、隆帯文4類3:1166、不明49:隆帯文の無文部位を含む)、桑ノ木津留産黒曜石製石燧未製品1点(1167)、剥片7点(黒曜石4:桑ノ木津留産3・鹿児島産1、砂岩2、ホルンフェルス



第168図 縄文早期ハイヒール状土坑実測図 (S=1/40)

形プランを呈し、床面の深さは20cmを測る。床面の南側端部に1箇所が見られる。遺構埋土からは土器片3点(別府原式1:1172、押型文2:1173・1174)が出土している。

SC-294はSI-239の掘り込みの床面で検出された。検出面での規模は0.82m×0.55mの不整楕円形プランを



第169図 縄文早期ハイヒール状土坑出土遺物実測図 (S=1/3・2/3)

呈し、床面の深さは6cmを測り、東側に1箇所掘り込みが見られる。礫を多く含んでおり、SI-239の下部構造物の可能性もある。遺構埋土からは押型文土器片1点、剥片2点(頁岩1、チャート1)が出土している。

## 5. 土坑

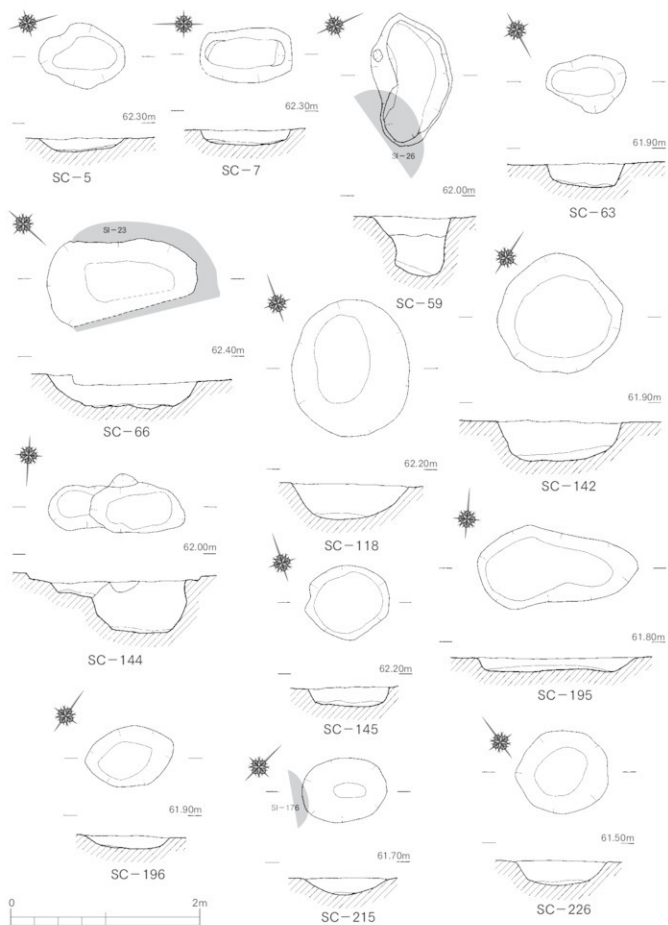
形態や規模に特定の特徴はなく、その性格が不明瞭なものをまとめた。土坑は全部で22基見つかっており、調査区中央付近により多く分布している。SC-7は基本土層VI層上部でSC-290はVIII層下部で検出されており、その他は炉穴などと同じようにVI層下部からVIII層上部で検出されている。以下に個別の所見について報告する。

SC-5は検出面での規模が0.91m×0.7mの不整楕円形プランを呈し、深さは14cmを測る。遺構埋土からは別府原式土器片2点が出土している。

SC-7は検出面での規模が0.97m×0.58mの不整隅丸方形プランを呈し、深さは16cmを測る。遺構埋土からはチャート製剥片1点、砂岩製敲石1点が出土している。

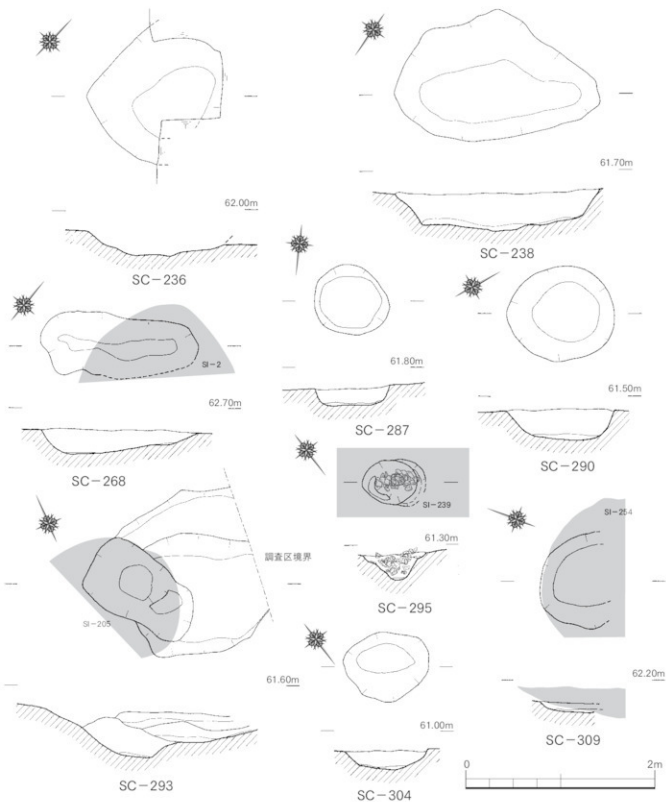
SC-59はSI-26に切られている。検出面での規模は1.4m×0.82mの不整楕円形プランを呈し、深さは62cmを測る。遺構埋土からは押型文土器片1点(1175)が出土している。

SC-63は検出面での規模が0.84m×0.62mの不整楕円形プランを呈し、深さは25cmを測る。遺構埋土からは砂岩製剥片1点が出土している。



第170図 縄文早期土坑実測図① (S=1/40)

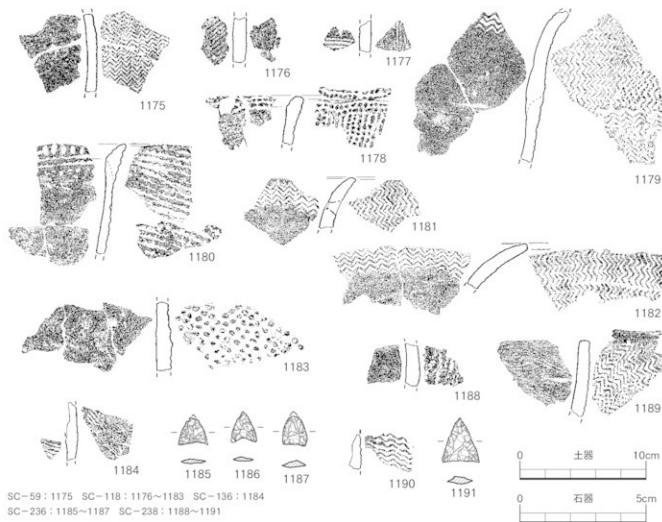




第171図 縄文早期土坑実測図② (S=1/40)

SC-66 は SI-23 の碟のつまり具合を見るとこれを切っていたようだが、SI-23 のほうを先に検出してしまっており、平面形はやや不明瞭である。現状の検出面での規模は  $1.57\text{m} \times 0.75\text{m}$  以上の不整楕円形プランを呈し、深さは  $33\text{cm}$  を測る。

SC-118 は検出面での規模が  $1.44\text{m} \times 1.25\text{m}$  の不整楕円形プランを呈し、深さは  $37\text{cm}$  を測る。遺構埋土からは土器片 12 点(押型文 10:1178 ~ 1183、条痕文土器 2 類 2:1176・1177)、チャート製剥片 1 点が出土している。



第172図 縄文早期土坑出土遺物実測図① (S=1/3・2/3)

SC-142は検出面での規模が1.34m×1.28mの不整形円形プランを呈し、深さは41cmを測る。遺構埋土からは不明土器片3点(別府原式と塞ノ神式か)、西北九州産黒曜石製剥片1点が出土している。

SC-144は検出面での規模が1.44m×0.63mの不整形長楕円形プランを呈し、深さは56cmを測る。西側にテラス状の平坦面を持つ。

SC-145は検出面での規模が0.91m×0.79mの不整形円形プランを呈し、深さは19cmを測る。

SC-195は検出面での規模が1.7m×0.85mの不整形長楕円形プランを呈し、深さは16cmを測る。

SC-196は検出面での規模が0.95m×0.63mの不整形楕円形プランを呈し、深さは12cmを測る。

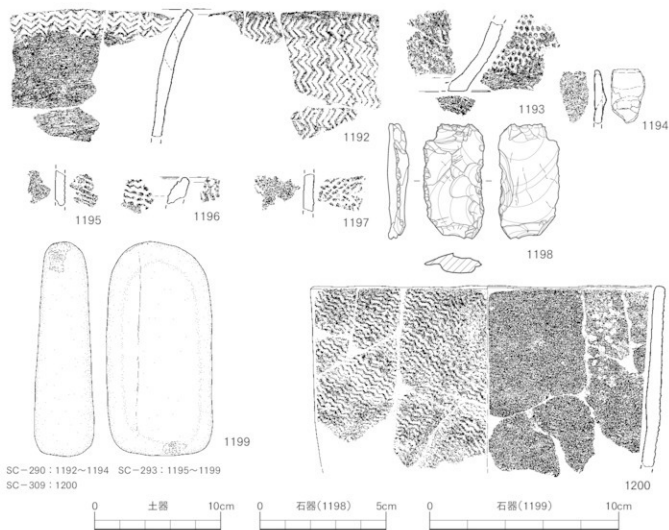
SC-215は南側にあるSI-176の調査後に検出された。検出面での規模は0.89m×0.67mの長楕円形プランを呈し、深さは0.87mを測る。

SC-226は検出面での規模は0.98m×0.89mの不整形円形プランを呈し、深さは25cmを測る。遺構埋土からは剥片3点(頁岩1、チャート1、桑ノ木津留産黒曜石1)が出土している。

SC-236は調査区全体の土層確認用のあぜの位置にあり、その掘削作業中に検出されたため、一部を検出前に壊してしまい不明瞭となってしまった。現状の検出面での規模が1.44m以上×1.45mの不整形円形プランを呈し、深さは25cmを測る。遺構埋土からは不明土器片1点、桑ノ木津留産黒曜石3点(1185~1187)、剥片34点(頁岩2、チャート2、桑ノ木津留産黒曜石28、砂岩2)、水晶片2点が出土している。

SC-238は検出面での規模は2.17m×1.35mの不整形楕円形プランを呈し、深さは42cmを測る。遺構埋土からは土器片15点(下刺峯式4:1188、押型文2:1189、不明土器1:塞ノ神式か、隆帯文の無文部位8)、チャート製石鏃1点(1191)、剥片7点(チャート2、桑ノ木津留産黒曜石4、砂岩1)が出土している。

SC-268はSI-2に切られており不明瞭だが、現状の検出面での規模は1.68m×0.67mの不整形長楕円形プランを呈する。床面は北から南へ緩やかに傾斜しており、最深部は25cmを測る。



第173図 縄文早期土坑出土遺物実測図② (S=1/3・2/3・1/2)

SC-287は検出面での規模は0.79m×0.77の不整形円形プランを呈し、深さは19cmを測る。遺構埋土からは土器片2点(下剥峯土器1、不明1)、チャート製剥片1点が出土している。

SC-290は検出面での規模は1.14m×1mの不整形円形プランを呈し、深さは30cmを測る。遺構埋土から土器片11点(押型文2:1192・1193、隆帯文:4類1・無文部位8)、剥片5点(頁岩2、チャート2、砂岩1)、砂岩製穀石1点が出土している。本遺構は当初検出層がⅢ層下部付近であったことから草創期のものと認識していたが、整理作業によって大振りの押型文土器片が伴っていたことが判明したため、早期のものと判断した。

SC-293は東側をSI-205に切れ、西側は調査区外に伸びているため不明瞭だが、現状の検出面での規模は1.82m以上×1.75mの不整形円形プランを呈し、深さは50cmを測る。北側にテラスが見られる。遺構埋土からは土器片16点(別府原式1:1195、押型文6:1196・1197、不明9:隆帯文の無文部位を含むか)、頁岩製スクレイパー1点(1198)、剥片10点(頁岩4、チャート3、砂岩2、緑色堆積岩1)、砂岩製穀石1点(1199)が出土している。

SC-295はSI-239の掘り込みの完掘後にその床面で検出された。検出面での規模は0.67m×0.47mの長楕円形プランを呈し、深さは28cmを測る。床面西側にテラスが見られる。礫を多く含んでおり、SC-294と同じようにSI-239の下部構造である可能性も考えられる。遺構埋土からは礫以外の出土遺物はない。

SC-304は検出面での規模は0.91m×0.74mの不整形円形プランを呈し、深さは21cmを測る。

SC-309はSI-254に南側を大きく切られており一部しか残っていなかった。現状の検出面での規模は1.14m以上×1.02mの不整形円形プランを呈し、深さは12cmを測る。遺構埋土からは土器片3点(押型文1:1200、不明2:隆帯文の無文部位か)、砂岩製剥片1点が出土している。1200の反転復元による口縁部径は27.1cmを測る。